

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

附総番 7961 号
令和 5年 10月 4日
開設者名 公立大学法人 横浜市立大学
理事長 小山内 いづ美

公立大学法人横浜市立大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
氏名	公立大学法人横浜市立大学 理事長 小山内 いづ美

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

公立大学法人横浜市立大学附属病院

3 所在の場所

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9
電話(045) 787 - 2800

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input checked="" type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	

診療実績

- ・呼吸器内科は呼吸器科にて診療
- ・消化器内科は消化器科にて診療
- ・循環器内科は循環器科にて診療
- ・腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科は内科にて診療

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科	有						
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、内分泌外科は外科にて診療 小児外科は心臓血管外科にて診療							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科	有						
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	呼吸器科	2	循環器科	3	消化器科	4	リハビリテーション	5	形成外科
6	病理診断科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26		16		632	674

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	469	30.7	499.7
歯科医師	17	1.2	18.2
薬剤師	52	11	61.5
保健師	0	0	0
助産師	45	0	45
看護師	732	23	748.1
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	3	2	5
管理栄養士	12	1	12.8

職種	員数
看護補助者	63
理学療法士	16
作業療法士	7
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	17
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	49

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	74
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	10	
その他の技術員	21	
事務職員	235	
その他の職員	2	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	72	眼科専門医	9
外科専門医	42	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	12	放射線科専門医	22
小児科専門医	21	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	27
産婦人科専門医	16	救急科専門医	7
		合計	285

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (後藤 隆久) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	515 人	16 人	531 人
1日当たり平均外来患者数	1796 人	42 人	1838 人
1日当たり平均調剤数	634		剤
必要医師数	154		人
必要歯科医師数	2		人
必要薬剤師数	18		人
必要(准)看護師数	327		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	195 m ²	鉄骨造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	8 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	11.55~13.43 m ²	病床数	13	床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	32		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	1278 m ²	鉄骨造	(主な設備)	生化学多項目自動分析装置 検体前処理・搬送システム		
細菌検査室	145 m ²	鉄骨造	(主な設備)	自動細菌検査装置、全自動血液培養装置		
病理検査室	312 m ²	鉄骨造	(主な設備)	自動免疫染色装置、電子顕微鏡		
病理解剖室	183 m ²	SRC	(主な設備)	解剖室、更衣室、安置室(冷蔵室)		
研究室	14749 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	動物実験センター、RI研究センター、臨床研究棟		
講義室	277 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	130 人
図書室	2398 m ²	鉄筋コンクリート	室数	室	蔵書数	157,616 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77 . 1 %	逆紹介率	79 . 7 %
算出 根拠	A: 紹介患者の数	15,304 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,782 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,913 人	
	D: 初診の患者の数	22,321 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病 院 医療安全管理部部長 医師	○	特定機能病院における 医療安全管理に卓越し た知識・経験を有し、当 該領域に造詣が深い	無	1
水地 啓子	森法律事務所 弁護士		特定機能病院における 医療や医療機関に関す る法律に卓越した識見 を有し、当該領域に造 詣が深い	無	1
足立 雅子	病院ボランティア会ラン パス		長年のボランティアの 活動経験から、患者さ んの立場で病院におけ る医療安全の推進に関 して意見を述べること ができる	無	2
寺内 康夫	本学医学部長		医学生及び医師の教 育・支援の観点から意 見を述べることのでき る(内部委員)	有	1
高橋 知宏	法人事務局副局長		法人全体の内部監査・ 外部監査に携わり公平 な立場で物事を判断し 意見を述べることので きる(内部委員)	有	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
大学のHP上で公開	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性てんかん患者に対する手術支援ロボットアームを用いた定位的頭蓋内電極留置／頭蓋内脳波 (stereotactic electroencephalography:SEEG)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
<p>横浜市立大学附属病院では、難治性てんかん患者に対して、2022年6月に手術支援ロボットアーム(Cirq ロボットアームシステム)を用いたものとしては世界初となる定位的頭蓋内電極留置／頭蓋内脳波 (stereotactic electroencephalography: SEEG)を行った。</p> <p>難治性てんかんの患者ではてんかん焦点を特定するために脳の表面や内部に直接電極を留置する頭蓋内電極留置と呼ばれる手法が必要となることがあるが、SEEGは開頭(頭蓋骨を専用のカッターで切って外すこと)を必要としないため、従来のシート状電極を用いた頭蓋内電極留置(硬膜下電極留置)よりも身体的負担が小さいことが知られている。</p> <p>また、脳の深い領域に位置するてんかん焦点や、てんかんの電氣的ネットワークの広がりや、開頭の範囲に制限されることなく効率よく探索できる点で有用な方法とされている。このシステムを用いることで高精度な頭蓋内電極留置が可能となる。さらに、従来の定位脳手術用フレームを用いる方法に比べて、手術時間で大幅に短縮することが可能となる。</p>			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	2人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	特発性門脈圧亢進症	1
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	原発性胆汁性胆管炎	8
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	原発性硬化性胆管炎	2
4	原発性側索硬化症	1	59	自己免疫性肝炎	2
5	進行性核上性麻痺	9	60	クローン病	4
6	パーキンソン病	41	61	潰瘍性大腸炎	13
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	慢性特発性偽性腸閉塞症	6
8	ハンチントン病	1	63	全身型若年性特発性関節炎	5
9	重症筋無力症	21	64	筋ジストロフィー	1
10	多発性硬化症/視神経脊髄炎	24	65	脳表ヘモジデリン沈着症	1
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	6	66	前頭側頭葉変性症	1
12	封入体筋炎	2	67	ラスムッセン脳炎	1
13	多系統萎縮症	10	68	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	13	69	特発性後天性全身性無汗症	10
15	ライゾーム病	2	70	プラダー・ウイリ症候群	1
16	ミトコンドリア病	6	71	完全大血管転位症	2
17	もやもや病	5	72	単心室症	6
18	プリオン病	1	73	左心低形成症候群	1
19	全身性アミロイドーシス	5	74	ファロー四徴症	1
20	天疱瘡	3	75	急速進行性糸球体腎炎	1
21	膿疱性乾癬(汎発型)	1	76	抗糸球体基底膜腎炎	2
22	高安動脈炎	4	77	紫斑病性腎炎	2
23	巨細胞性動脈炎	6	78	オスラー病	1
24	結節性多発動脈炎	7	79	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2
25	顕微鏡的多発血管炎	32	80	家族性地中海熱	1
26	多発血管炎性肉芽腫症	25	81	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	1
27	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	82	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
28	悪性関節リウマチ	7	83	胆道閉鎖症	2
29	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	84	IgG4関連疾患	1
30	全身性エリテマトーデス	41	85	好酸球性副鼻腔炎	5
31	皮膚筋炎/多発性筋炎	25	86		
32	全身性強皮症	33	87		
33	混合性結合組織病	13	88		
34	シェーグレン症候群	9	89		
35	成人スチル病	11	90		
36	再発性多発軟骨炎	3	91		
37	ベーチェット病	30	92		
38	特発性拡張型心筋症	6	93		
39	再生不良性貧血	4	94		
40	自己免疫性溶血性貧血	1	95		
41	特発性血小板減少性紫斑病	2	96		
42	原発性免疫不全症候群	3	97		
43	IgA腎症	3	98		
44	多発性嚢胞腎	12	99		
45	後縦靱帯骨化症	3	100		
46	特発性大腿骨頭壊死症	16	101		
47	下垂体性ADH分泌異常症	1	102		
48	クッシング病	2	103		
49	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2	104		
50	下垂体前葉機能低下症	8	105		
51	サルコイドーシス	13	106		
52	特発性間質性肺炎	21	107		
53	肺動脈性肺高血圧症	33	108		
54	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	77	109		
55	リンパ脈管筋腫症	2	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	85
合計患者数(人)	728

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
・歯科外来診療環境体制加算1	・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1、結核病棟7対1、精神病棟7対1)
・超急性期脳卒中加算	・診療録管理体制加算1
・救急医療管理加算	・医師事務作業補助体制加算1
・急性期看護補助体制加算	・看護職員夜間配置加算
・療養環境加算	・重症者等療養環境特別加算
・無菌治療室管理加算1	・無菌治療室管理加算2
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)
・緩和ケア診療加算	・精神科身体合併症管理加算
・精神科リエゾンチーム加算	・摂食障害入院医療管理加算
・栄養サポートチーム加算	・重症患者初期支援充実加算
・医療安全対策加算1	・感染対策向上加算1
・患者サポート体制充実加算	・報告書管理体制加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・ハイリスク分娩管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・後発医薬品使用体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算1
・病棟薬剤業務実施加算2	・データ提出加算2
・入退院支援加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・精神疾患診療体制加算	・精神科急性期医師配置加算
・地域医療体制確保加算	・特定集中治療室管理料1
・ハイケアユニット入院医療管理料1	・新生児特定集中治療室管理料1
・小児入院医療管理料2	・看護職員処遇改善評価料68
・入院時食事療養/生活療養(I)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ウイルス疾患指導料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・糖尿病合併症管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がん患者指導管理料イ
・がん患者指導管理料ロ	・がん患者指導管理料ハ
・がん患者指導管理料ニ	・外来緩和ケア管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児運動器疾患指導管理料
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・婦人科特定疾患治療管理料
・腎代替療法指導管理料	・二次性骨折予防継続管理料1
・二次性骨折予防継続管理料3	・下肢創傷処置管理料
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・外来放射線照射診療料
・外来腫瘍化学療法診療料1	・連携充実加算
・ニコチン依存症管理料	・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
・がん治療連携計画策定料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・薬剤管理指導料
・医療機器安全管理料1	・医療機器安全管理料2
・医療機器安全管理料(歯科)	・精神科退院時共同指導料2
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・遺伝学的検査	・染色体検査の注2に規定する基準
・精密触覚機能検査	・骨髄微小残存病変量測定
・BRCA1/2遺伝子検査	・がんゲノムプロファイリング検査
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・HPV核酸検出およびHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・検体検査管理加算(I)
・検体検査管理加算(IV)	・国際標準検査管理加算
・遺伝カウンセリング加算	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・胎児心エコー法

・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ヘッドアップティルト試験
・人工臓器検査、人工臓器療法	・長期継続頭蓋内脳波検査
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・脳波検査判断料1
・遠隔脳波診断	・単線維筋電図
・神経学的検査	・補聴器適合検査
・黄斑局所網膜電図	・全視野精密網膜電図
・ロービジョン検査判断料	・コンタクトレンズ検査料1
・内服・点滴誘発試験	・CT透視下気管支鏡検査加算
・経気管支凍結生検法	・画像診断管理加算1
・画像診断管理加算3	・遠隔画像診断
・ポジトロン断層撮影	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・コンピューター断層撮影(CT撮影)	・磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)
・冠動脈CT撮影加算	・心臓MRI撮影加算
・乳房MRI撮影加算	・頭部MRI撮影加算
・肝エラストグラフィ加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・無菌製剤処理料
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	・がん患者リハビリテーション料
・歯科口腔リハビリテーション料2	・児童思春期精神科専門管理加算
・療養生活継続支援加算	・認知療法・認知行動療法
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・医療保護入院等診療料	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・硬膜外自家血注入	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・人工腎臓
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・手術用顕微鏡加算
・CAD/CAM冠	・センチネルリンパ節加算
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る。)

・椎間板内酵素注入療法	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・脳刺激装置植込術(頭蓋骨内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・網膜再建術	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術および植込型骨導補聴器交換術	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・顎関節人工関節全置換術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・経皮的の中隔心筋焼灼術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(心筋リードを用いるもの)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・補助人工心臓
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・経皮的下肢動脈形成術

・腹腔鏡下リンパ群郭清術(側方)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出手術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・腹腔鏡下肝切除術	・生体部分肝移植術
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・輸血管理料 I
・輸血適正使用加算	・コーディネート体制充実加算
・自己生体組織接着剤作成術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・同種クリオプレシピテート作製術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・歯周組織再生誘導手術	・広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・麻酔管理料(I)	・麻酔管理料(II)
・放射線治療専任加算	・外来放射線治療加算
・高エネルギー放射線治療	・1回線量増加加算
・強度変調放射線治療(IMRT)	・画像誘導放射線治療(IGRT)

・体外照射呼吸性移動対策加算	・定位放射線治療
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・画像誘導密封小線源治療加算
・病理診断管理加算2	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・歯科矯正診断料
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・酸素の購入単価
・通院対象者通院医学管理料	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高リスク染色体異常を有する新規白血病細胞株を応用した抗がん剤耐性機構の解明	國本 博義(代) 中島 秀明(分)	血液・免疫・感染症内科学	130万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)
ミトコンドリアダイナミクスによる白血病幹細胞制御機構の解明と新規治療への応用	中島 秀明(代) 國本 博義(分)	血液・免疫・感染症内科学	360万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(B)
ベーチェット病のゲノムワイド型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	桐野 洋平(代) 中島 秀明(分) 吉見 竜介(分)	血液・免疫・感染症内科学	165万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(B)
全身性強皮症に伴う皮膚潰瘍に対する自家骨髄単核球移植を用いた血管再生療法に関する研究開発	吉見 竜介(代)	血液・免疫・感染症内科学	1,219万円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構, 日本医療研究開発機構研究費 再生医療実用化研究事業
組織におけるナトリウム代謝異常をターゲットとした全身性強皮症の病態解明	峯岸 薫(代) 中島 秀明(分) 桐野 洋平(分) 吉見 竜介(分)	血液・免疫・感染症内科学	156万円	補 委	日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)
転写因子IRF5阻害剤による全身性エリテマトーデスの革新的治療法とそのコンパニオン診断法の開発	中島 秀明	血液・免疫・感染症内科学	70万円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	中島 秀明	血液・免疫・感染症内科学	45万円	補 委	感染症実用化研究事業
ベーチェット病に関する調査研究	桐野 洋平	血液・免疫・感染症内科学	60万円	補 委	厚生労働省 領域別基盤研究分野
ベーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国レジストリーの構築	桐野 洋平	血液・免疫・感染症内科学	450万円	補 委	日本医療研究開発機構研究費 難治性疾患実用化研究事業
成人発症スチル病(AOSD)に対する5-アミノレブリン酸塩酸塩/クエン酸第一鉄ナトリウム(5-ALA HCL/SFC)投与の医師主導治験	桐野 洋平	血液・免疫・感染症内科学	100万円	補 委	日本医療研究開発機構研究費 難治性疾患実用化研究事業
ベーチェット病の臨床亜群形成因子に基づく予後予測	桐野 洋平	血液・免疫・感染症内科学	10万円	補 委	学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)
タトゥー施術等の安全管理体制の構築に向けた研究.	加藤 英明	血液・免疫・感染症内科学/感染制御部	30万円	補 委	厚生労働行政推進調査事業費補助金
COVID-19 重症患者臨床研究における同意確認:実態と電指摘同意の有用性	加藤 英明	血液・免疫・感染症内科学/感染制御部	1万円	補 委	学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2019」喀痰総論の改定に向けたエビデンスの構築	金子 猛	呼吸器病学	50万 (分担学内10万・学外25万)	補 委	文科省科研費補助金
糖尿病性腎臓病における腎エネルギー代謝の病態生理学的意義の解明	小豆島健護(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	234万円	補 委	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)若手研究(R3-R4年度)
エネルギー代謝障害に着目した糖尿病性心腎連関の新規病態解明および新規治療法探索	小豆島健護(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	250万円	補 委	公益財団法人循環器病研究振興財団 第30回(2022年度)バイエル循環器病研究助成
エネルギー代謝障害に着目した糖尿病性心腎連関の新規病態解明および新規治療法探索	小豆島健護(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	300万円	補 委	公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 2022年度持田記念研究助成金(R4-R5年度)
『興奮・転写連関』に着目した高血圧症の食塩感受性の尿細管性機序の分子病態の解明	石上友章(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	70万円	補 委	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) (R2-R4年度)
多発性嚢胞腎の新規創薬標的の検証	石上友章(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	352万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)受託研究費 (R3-R4年度)
重症虚血肢に対し、近赤外線分光装置(NIRS)を使用した至適運動療法を確立する研究	石上友章(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	55万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)受託研究費
腸内細菌と脾臓B2細胞に着目した、動脈硬化症の分子病態の解明	石上友章(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	10万円	補 委	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) (R2-R4年度)
腎老化病態におけるATRAPと新規老化関連因子Glutaminaseの関連性の救命	浦手進吾(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	143万円	補 委	日本学術振興会 研究活動スタート支援(R4-R5年度)
収縮機能の保持された心不全におけるRANKL/RANK/OPGシステムの役割	上村大輔	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	104万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R3-R5年度)
サルコペニアをともなう慢性腎臓病における六君子湯の腎保護効果の検討	金口 翔(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	156万円	補 委	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)若手研究(R4-R5年度)
六君子湯の筋腎関連を介した腎保護効果の検討	金口 翔(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	200万円	補 委	公益財団法人上原記念生命科学財団(R4-R6年度)
高齢心不全患者のフレイルに対する鉄補充療法の効果の検証	小西正紹(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	208万円	補 委	科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) (R4-R6年度)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
マクロファージにおける受容体結合因子に着目した心腎連関制御	鈴木 徹(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	143万円	補 委	日本学術振興会 研究活動スタート支援(R4-R5年度)
皮膚組織の受容体結合性機能制御蛋白による心血管腎臓病の新規病態連関制御機構の解明	田村功一(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	169万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)挑戦的研究(萌芽)(R2-R4年度)
高血圧-脳心血管病-腎臓病の病態連関の機序解明と新規治療開発をめざした研究	田村功一(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	100万円	補 委	学長裁量事業「かもめプロジェクト」(H30-R5年度)
精緻な疾患レジストリーと遺伝・環境要因の包括的解析による糖尿病性腎臓病, 慢性腎臓病の予後層別化と最適化医療の確立	田村功一(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	192万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)受託研究費
糖尿病性腎症, 慢性腎臓病の重症化抑制に資する持続的・自律的エビデンス創出システムの構築と健康寿命延伸・医療最適化への貢献	田村功一(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	100万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)受託研究費
病院前12誘導心電図の有有用性の検証とその普及-神奈川循環器救急レジストリー研究-	田村功一(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	1万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(R2-R4年度)
機械学習により心電図データから換気障害を予測するアルゴリズムの構築	峯岸慎太郎(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	10万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R4-R6年度)
老化関連脳心血管病における受容体結合因子の病態生理学的意義	涌井広道(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	143万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(R2-R4年度)
白血球・免疫細胞における受容体結合因子に着目した生活習慣病治療の開発	涌井広道(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	200万円	補 委	2022年度守谷奨学財団助成
下肢潰瘍に対するアフエレスス療法の治療メカニズムの解明およびバイオマーカーの開発	涌井広道(代)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	227万円	補 委	日本透析医会研究助成事業(R4-R6年度)
高血圧-脳心血管病-腎臓病の病態連関の機序解明と新規治療開発をめざした研究	涌井広道(分)	循環器・腎臓・ 高血圧内科学	40万円	補 委	学長裁量事業「かもめプロジェクト」(H30-R5年度)
多機関共同のリアルワールドデータ研究に対するrisk based approachを用いた臨床研究支援の実装と課題解決法の提案	前田 慎(分)	消化器内科学	100万円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 研究開発推進ネットワーク事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵癌における腫瘍関連マクロファージのマスター転写因子を標的とした新規治療法への探索研究	前田 慎(分)	消化器内科学	40万円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構次世代がん医療加速化研究事業
膵がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた超音波内視鏡ガイド投与による革新的PET画像診断の第I相医師主導治験	前田 慎(分)	消化器内科学	20万円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構臨床研究・治験推進研究事業
ヒルシユスプルング病類縁疾患(慢性特発性偽性腸閉塞症CIIP), 成人期・移行期対応「難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究」	中島 淳(分)	肝胆膵消化器病学	20万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)
消化器疾患に関する専門的助言, 大学病院との連携「事業場において治療と仕事の両立を支援するための配慮とその決定プロセスに関する研究」	斉藤 聡(分)	肝胆膵消化器病学	40万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金(労災疾病臨床研究事業費補助金)
ステージ別のNASH臨床検体の取得と臨床情報の解析「ヒト肝オルガノイドモデルを用いた内分泌系の破綻と炎症・線維化機構の解明」	米田正人(分)	肝胆膵消化器病学	346万円	補 委	日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-革新的先端研究開発支援事業CREST, PRIME)(R2-R7)
ips細胞を用いた代謝性臓器の創出技術開発「ips細胞を用いた代謝性臓器の創出技術開発拠点」	中島 淳(分), 斉藤 聡(分), 米田正人(分)	肝胆膵消化器病学	195万円	補 委	日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-再生医療実現拠点ネットワークプログラム疾患・組織別実用化研究拠点(拠点B))(H25-R4)
ヒトオルガノイドを用いたハイスループットスクリーニング結果の検証「オルガノイドを活用したPTEN遺伝子VUSの新規評価法の確立」	加藤真吾(分)	肝胆膵消化器病学	520万円	補 委	日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-ゲノム創薬基盤推進研究事業)(R4-R7)
バイオマーカーの体外診断薬承認に必要な血液検体の集積「膵癌における腫瘍関連マクロファージのマスター転写因子を標的とした新規治療法への探索研究」	加藤真吾(分)	肝胆膵消化器病学	104万円	補 委	日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-次世代がん医療加速化研究事業)(R4-R6))
フソバクテリウムが大腸発がんに及ぼす影響の検証ーオルガノイドを用いてー	松浦哲也(代)	肝胆膵消化器病学	13万円	補 委	科学研究費助成事業若手研究(R2-R4年度総額39万円)
超音波内視鏡下エラストグラフィによる膵実質硬度測定方法の確立	佐藤高光(代)	肝胆膵消化器病学	39万円	補 委	科学研究費助成事業若手研究(R2-R4年度総額429万円)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵IPMNにおける膵液オルガノイドを用いた診断法と創薬研究への応用	栗田裕介(代)	肝胆膵消化器病学	130万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(R2-R4年度 総額364万円)
腸管バリアに注目した非アルコール性脂肪疾患の新規治療の開発	結束貴臣(代)	肝胆膵消化器病学	130万円	補 委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R3-R5年 度 総額416万円)
NAFLDおよびNAFLD由来肝細胞癌における鉄沈着の役割の検討	今城健人(代)	肝胆膵消化器病学	195万円	補 委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R3-R5年 度 総額403万円)
NAFLDに合併するサルコペニア発症機序における門脈圧亢進症,胆汁酸変化の検討	米田正人(代)	肝胆膵消化器病学	52万円	補 委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R3-R5年 度 総額312万円)
CDH1病的胚細胞バリエーションと環境要因の解析ーびまん型胃癌予防への応用ー	鈴木章浩(代)	肝胆膵消化器病学	143万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(R3-R5年度 総額442万円)
オルガノイドを用いた膵神経内分泌腫瘍の腫瘍免疫応答解明と新規治療薬の開発	長谷川 翔(代)	肝胆膵消化器病学	143万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(R3-R5年度 総額468万円)
胆汁酸性下痢症における新規診断法および革新的治療法の開発	三澤 昇(代)	肝胆膵消化器病学	146万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(R3-R7年度 総額468万円)
腸内細菌投与による腫瘍免疫増強とNASH肝癌治療法の開発	小林 貴(代)	肝胆膵消化器病学	182万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(R3-R5年度 総額364万円)
歯周病治療が及ぼす大腸腫瘍や便のF.nucleatumへの影響	吉原 努(代)	肝胆膵消化器病学	117万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(R3-R7年度 総額455万円)
精密がん患者モデルを用いた膵癌新規がん免疫療法の開発	加藤真吾(代), 鈴木章浩(分)	肝胆膵消化器病学	169万円	補 委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R4-R6 年度 総額403万円)
NASHマウスの動脈硬化,発癌に対するエロピキシバット,コレステラミンの有効性	岩城慶大(代)	肝胆膵消化器病学	39万円	補 委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)(R4-R6 年度 総額117万円)
難治性がんの代表である膵癌の包括的理解と革新的治療法開発への挑戦	中島 淳(代)	肝胆膵消化器病学	250万円	補 委	学長裁量事業 かもめ プロジェクト(H30-R6年 度)
NAFLD/NASH病態における腸内細菌と遺伝因子	中島 淳(代)	肝胆膵消化器病学	300万円	補 委	学長裁量事業 2022年 度戦略的研究推進事 業 研究開発プロジェ クト

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
神経・神経疾患の新しいPET診断法開発	中島 淳(分)	肝胆膵消化器病学	15万円	補 委	学長裁量事業 2022年度 戦略的研究推進事業 研究開発プロジェクト
がん薬物療法感受性予測因子としての高感度相同組換え修復異常検査の開発	加藤真吾(代)	肝胆膵消化器病学	500万円	補 委	令和4年度学長裁量事業 (学術研究推進持病) 「YCU未来共創プロジェクト」(R4-R5年度)
若年性大腸癌のリスク因子としてのF. nucleatumの役割の解明と新規予防法の開発	日暮琢磨(代)	肝胆膵消化器病学	100万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団 令和4年度学術研究助成 「がん研究助成」
顕性脳症患者の腸内環境の調査と新規治療法の探索	野上麻子(代)	肝胆膵消化器病学	50万円	補 委	一般財団法人横浜総合医学振興財団 令和4年度学術研究助成 「わかば研究助成」
糖脂肪毒性下の膵島ミトコンドリア機能障害・炎症の病態解明と治療法の創出	寺内康夫(代)	内分泌・糖尿病内科	429万円	補 委	科学研究費基盤研究(B)
新規イントロンリピート病 CANVASの病態解析モデルの構築	田中章景(代) 土井 宏(分) 竹内英之(分)	神経内科学・脳卒中医学	100万円	補 委	文科省科学研究費 基盤研究(C)
運動学習に着目した新規脳機能評価法を活用したエビデンス創出	田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	35万円	補 委	日本医療研究開発機構受託研究費(AMED)
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	110万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)
運動失調症の医療水準, 患者QOLの向上に資する研究	田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	70万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業)
VRと運動学習転移を用いたパーキンソン病における新しい運動訓練の開発	上田直久(代) 田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	7.5万円	補 委	文科省科学研究費基盤研究(C)
単球系細胞から捉えた全身炎症による神経変性疾患の病態進展の機序解明	竹内英之(代) 土井宏(分) 田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	110万円	補 委	文科省科学研究費基盤研究(C)
自己免疫性自律神経障害の全国調査, 診断基準策定, 国際的な総意形成	竹内英之(分)	神経内科学・脳卒中医学	10万円	補 委	厚労省科学研究費
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	竹内英之(分)	神経内科学・脳卒中医学	40万円	補 委	厚労省科学研究費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脊髄小脳失調症42型疾患修飾治療開発と光遺伝学手法を用いた病態基盤の解明	土井宏(代) 竹内英之(分) 田中章景(分) 国井美紗子(分)	神経内科学・脳卒中医学	80万円	補委	文科省科学研究費基盤研究(C)
SCA42疾患修飾治療に向けた病態基盤の解明	土井宏(代) 田中章景(分) 竹内英之(分) 橋口俊太(分) 国井美紗子(分)	神経内科学・脳卒中医学	720万円	補委	AMED難治性疾患実用化研究事業(病態解明)
ミクログリアRIPK1の解析に基づくアミロイド・タウ関連解明と新規治療法の開発	勝元敦子(代) 田中章景(分) 竹内英之(分)	神経内科学・脳卒中医学	90万円	補委	文科省科学研究費基盤研究(C)
弧発性ALSにおける非膜オルガネラの病的動態の解明	多田美紀子(代) 土井宏(分) 竹内英之(分) 田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	130万円	補委	文科省科学研究費基盤研究(C)
LOTUSによる神経変性と炎症の制御に基づく多発性硬化症の画期的な治療法開発	高橋慶太(代) 竹内英之(分) 田中章景(分)	脳神経内科・脳卒中医学	100万円	補委	文科省科学研究費基盤研究(C)
扁桃体腫大を伴う側頭葉てんかんの病態背景の解明と新規治療法の開発	国井美紗子(代) 土井宏(分) 多田美紀子(分) 東山雄一(分) 田中章景(分)	神経内科学・脳卒中医学	90万円	補委	文科省科学研究費基盤研究(C)
パーキンソン病の仮面様顔貌と認知症発症の関連についての検討:前向きコホート研究	東山雄一	神経内科学・脳卒中医学	50万円	補委	文科省科学研究費 若手研究
先進的脳画像・症候・遺伝子解析によるパーキンソン病の認知症進展予測マーカーの開発	東山雄一(代) 田中章景(分) 土井宏(分)	神経内科学・脳卒中医学	50万円	補委	公益財団先進医薬研究振興財団2022年度精神薬療分野助成
CRMP2の機能解明に基づく神経変性疾患の治療法開発	中村治子(代)	神経内科学・脳卒中医学	126万円	補委	文科省科学研究費 若手研究
パーキンソン病の疾患予後に影響を与える非運動症状の新規実用的評価方法の確立	上木英人(代)	神経内科学・脳卒中医学	60万円	補委	文科省科学研究費 若手研究
T型カルシウムチャネルパッチにおける神経変性分子基盤の解明	橋口俊太(代)	神経内科学・脳卒中医学	110万円	補委	文科省科学研究費 若手研究
全身炎症によるALS病勢促進の機序解明	古宮裕泰(代)	神経内科学・脳卒中医学	120万円	補委	文科学研究費 研究活動スタート支援
全身炎症におけるALS病勢促進の機序解明	古宮裕泰(代)	神経内科学・脳卒中医学	50万円	補委	一般財団法人 横浜総合医学振興財団 わかば研究助成金
全身炎症におけるALS病勢促進の機序解明	古宮裕泰(代)	神経内科学・脳卒中医学	100万円	補委	公益信託宮田幸比古記念ALS研究助成基金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
凝集体結合タンパク質SGTAの解析を通じた神経変性疾患の分子病態解明	窪田瞬(代)	神経内科学・脳卒中医学	240万円	補委	日本学術振興会科学研究助成事業 若手研究
CDH1病的胚細胞バリエントと環境要因の解析ーびまん型胃癌予防への応用ー	鈴木章浩(代)	がん総合医科学	156万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究(2021-2024年度)
局所進行胃癌に対する術前補助化学療法の個別化を目指したバイオマーカーの検索	青山 徹(代)	外科治療学	120万円	補委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)
メチオニン制限による膵癌新規治療の開発	三宅謙太郎(代)	消化器・腫瘍外科学	100万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
エンハンサー解析手法を用いた膵胆管合流異常での発癌メカニズムの解明	本間祐樹(代)	消化器・腫瘍外科学	30万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
腫瘍内細菌叢が腫瘍微小環境を介して乳癌幹細胞に及ぼす影響	山田顕光(代)	消化器・腫瘍外科学	240万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
大腸癌における硫黄代謝物に関する研究	小澤真由美(代)	消化器・腫瘍外科学	130万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
肝細胞癌手術患者における免疫エフェクター細胞とアディポサイトカインの検討	澤田雄(代)	消化器・腫瘍外科学	30万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
血中TFPI2を用いた新規膵癌バイオマーカーの開発	清水康博(代)	消化器・腫瘍外科学	20万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
血液中エクソソーム・インテグリンによる大腸癌術後の転移・再発部位の予測診断法	中川和也(代)	消化器・腫瘍外科学	80万円	補委	文部科学省科学研究費 若手研究
肝外胆管癌モデルマウスの樹立と新規治療法の開発	豊田純哉(代)	消化器・腫瘍外科学	25万円	補委	公益財団法人 横浜学術教育振興財団研究助成
機械学習・統計解析・薬物動態力学解析を組み合わせた麻酔薬理研究	増井健一(代)	麻酔科学	416万円	補委	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2022～2024年度
統合レジストリによる多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	増井健一(分)	麻酔科学	90万円	補委	AMED 2021～2023年度
インターフェロン制御因子5を標的とした急性呼吸窮迫症候群の分子標的治療の開発	竹内一郎(代), 西井基継(分), 田村智彦(分), 小川史洋(分)	救急医学	416万円	補委	2022年度文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C) 3年
Single-Cell RNA sequenceによるARDS病態の網羅的探索	本澤大志(代), 西井基継(分), 谷口隼人(分), 田村智彦(分), 小川史洋(分), 竹内一郎(分)	救急医学	429万円	補委	2022年度文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C) 3年

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
人工知能を用いたRadiogenomicsによる急性呼吸窮迫症候群の解析	西井基継(代)	救急医学	100万円	補 委	2022年度学術的研究推進事業 科研費採択支援(大型種目)プロジェクト1年
臨床血液検体からの「SARS-CoV-2 RNA抽出によるEluNAシステムの性能評価および臨床的有用性の検証	西井基継(代)	救急医学	500万円	補 委	2022年度産学連携共同研究 1年
地域高齢者を対象とした転倒事故と救急受診の予防に対するEMSの有効性に関する研究	西井基継(代)	救急医学	200万円	補 委	2022年度産学連携共同研究 1年
治療抵抗性の新型コロナウイルス感染症における分子病態解析	西井基継(代)	救急医学	100万円	補 委	2022年度 横浜総合医学振興財団 1年
肺実質の弾性計測のためのBラインエラストグラフィ法の開発	谷口隼人(分)	救急医学	416万円	補 委	2022年度文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)3年
肺実質の弾性計測のためのBラインエラストグラフィ法の開発	谷口隼人(代)	救急医学	100万円	補 委	2022年度LIP, 横浜トライアル助成金 1年
Bラインエラストグラフィ法による肺実質の弾性計測の実証	谷口隼人(代)	救急医学	100万円	補 委	2022年度公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団研究助成金 1年
肺弾性計測のためのBラインエラストグラフィ法の検証	谷口隼人(代)	救急医学	500万円	補 委	2022年度公益財団法人上原記念生命科学財団研究助成金 1年
肺弾性計測のためのBラインエラストグラフィ法の確立	谷口隼人(代)	救急医学	500万円	補 委	2022年度公益財団法人中谷医工計測技術振興財団研究助成金 1年
tablet端末とPACSを用いた重症外傷におけるIVR開始時間短縮と転帰改善	中嶋賢人(代)	救急医学	90万円	補 委	2022年度 交通事故医療一般研究助成1年
分子標的アプローチによるIDH1変異グリオーマ関連てんかんの制御	池谷直樹(代)	脳神経外科学	364万円	補 委	科学研究費助成事業 若手研究(2022-2024)
脳内異常放電が脳深部ネットワークに与える影響の解析	池谷直樹(代)	脳神経外科学	450万円	補 委	公益財団法人 上原記念生命科学財団:海外留学助成金 リサーチフェローシップ(2021-2022)
The pathogenic effects of temporal lobe epilepsy on deep brain networks.	池谷直樹(代)	脳神経外科学	248万円	補 委	日米科学技術協力事業「脳研究」分野(日米脳):共同研究者派遣(Neurobiology of Disease)(2021-2023)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
エビデンス創出・基礎研究推進委員会認定研究、くも膜下出血後の認知機能障害:微小血管障害に起因する新規炎症分子機構の役割	高瀬 創(代)	脳神経外科学	30万円	補 委	日本脳循環代謝学会
新たな神経炎症経路に着目したくも膜下出血後認知機能障害の病態解明と治療応用	高瀬 創(代)	脳神経外科学	442万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(C) (2019-2022)
慢性硬膜下血腫の微小病態解析:慢性炎症と新生血管に着目した新規治療標的の創出	高瀬 創(分)	脳神経外科学	416万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(C) (2019-2022)
正常圧水頭症における新規神経炎症機構の役割:神経索路画像と分子生物学的アプローチを用いたトランスレーショナル研究	高瀬 創(代)	脳神経外科学	100万円	補 委	公益財団法人大樹生命厚生財団 第53回医学研究助成(2020-2022)
脳震盪における生物学的予後診断マーカーの開発とその意義	高瀬 創(代)	脳神経外科学	85万円	補 委	一般社団法人 日本損害保険協会 交通事故医療研究助成(2020-2022)
脳震盪と神経血管炎症:長期的認知機能診断マーカーの開発と治療への展開	高瀬 創(代)	脳神経外科学	100万円	補 委	一般社団法人 JA共済総合研究所JA共済 交通事故医療研究助成(2021-2022)
脳動脈瘤の壁内微小環境と炎症機構	高瀬 創(代)	脳神経外科学	41万円	補 委	公益財団法人 横浜学術教育振興財団2021年度研究助成(2021-2022)
脳震盪と神経炎症:慢性障害性分子機構と治療応用	高瀬 創(代)	脳神経外科学	80万円	補 委	一般社団法人日本損害保険協会 交通事故医療研究助成(2021-2023)
非線形ダイナミクス解析を用いたヒトてんかんネットワークの時系列変容の解明～定位的頭蓋内脳波記録を用いた検討～	高山裕太郎(代)	脳神経外科学	35万円	補 委	公益財団法人横浜学術教育振興財団 研究助成
非線形ダイナミクス解析を用いたヒトてんかんネットワークの時系列変容の解明～定位的頭蓋内脳波記録を用いた検討～	高山裕太郎(代)	脳神経外科学	50万円	補 委	一般財団法人 横浜総合医学振興財団 わかば研究助成
神経膠腫における血中マーカーおよび腫瘍環境についての研究	立石健祐(代)	脳神経外科学	850万円	補 委	中外製薬株式会社共同研究費(2022-2025)
神経膠芽腫の増殖ストレス緩和システムを標的とする新規がん治療戦略の確立	立石健祐(分)	脳神経外科学	480万円	補 委	次世代がん医療加速化研究事業 (AMED)(2022-2024)
膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化	立石健祐(分)	脳神経外科学	90万円	補 委	革新的がん医療実用化研究事業 (AMED), (2021-2023)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小細胞肺癌転移性脳腫瘍における患者由来細胞株樹立による特異的局所浸潤機序の解明	立石健祐(分)	脳神経外科学	60万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(C)(2021-2023)
64Cu-ATSM局所治療:切除困難な膠芽腫への革新的術中RI治療への挑戦	立石健祐(分)	脳神経外科学	100万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(C)(2022-2026)
IDH神経膠腫の特異的DNA修復機構の解明と治療法の創出	立石健祐(代)	脳神経外科学	310万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(C)(2022-2025)
難治性中枢神経系悪性腫瘍に対する標的治療法の開発	立石健祐(代)	脳神経外科学	400万円	補 委	横浜市立大学 第5期戦略的研究推進事業(2021-2023)
難治性悪性脳腫瘍に対する日本発放射線薬剤64Cu-ATSMによる新治療法開発—早期承認を目指す第I相拡大コホート試験の実施	立石健祐(分)	脳神経外科学	100万円	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)(2021-2022)
チラブルチニブの中枢神経原発悪性リンパ腫(PCNSL)に対する効果に関する基礎研究	立石健祐(代)	脳神経外科学	2,000万円	補 委	小野薬品工業株式会社共同研究費(2020-2022)
中枢神経系悪性リンパ腫の腫瘍内多様性と微小環境解析による病態発生の解明と治療開発	立石健祐(分)	脳神経外科学	40万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(B)(2020-2024)
マルチオミクスを活用した新規プロテオーム解析技術の創出と脳腫瘍バイオマーカー探索	立石健祐(分)	脳神経外科学	300万円	補 委	科学研究費補助金基盤研究(B)(2019-2022)
中枢神経原発悪性リンパ腫の患者由来モデルを用いた腫瘍微小環境と標的因子の探索	三宅勇平(代)	脳神経外科学	455万円	補 委	科学研究費助成事業若手研究(2022-2024)
中枢神経系原発悪性リンパ腫の患者由来モデルを用いた治療耐性機序の解明	三宅勇平(代)	脳神経外科学	100万円	補 委	横浜総合医学振興財団がん研究助成
HPVワクチンの有効性の評価のための大規模疫学研究	宮城悦子(分)	産婦人科学	242.3万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)受託研究費(革新的がん医療実用化研究事業)(2020-2022)
子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究	宮城悦子(分)	産婦人科学	100万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)研究費(革新的がん医療実用化研究事業)(2020-2022)
子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究	宮城悦子(分)	産婦人科学	50万円	補 委	厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)(2022-2024)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
COVID-19流行前後における子宮頸がん予防ワクチン接種行動の比較	宮城悦子(分)	産婦人科学	20万円	補 委	日本学術振興会/科学研究費助成事業/基盤研究(C)(2022-2024)
生まれ年度によるHPVワクチン接種環境の違いに着目した子宮頸がん罹患リスクの評価・子宮頸がん検診受診勧奨手法の開発とHPVワクチンの有効性評価	宮城悦子(分)	産婦人科学	(代表者一括計上)	補 委	厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)(2020-2022)
低エストロゲン環境下の子宮筋腫縮小をMED12遺伝子変異から予測する	宮城悦子(分)	産婦人科学	(代表者一括計上)	補 委	関東連合産科婦人科学会臨床調査研究助成金(2022-2024)
先天異常モニタリングに関する研究	倉澤健太郎(代)	産婦人科学	150万円	補 委	日本産婦人科医会おぎや一献金基金
生殖・周産期に係る倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)の検討のための研究	倉澤健太郎(分)	産婦人科学	300万円	補 委	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)(2022-2024)
ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究	倉澤健太郎(分)	産婦人科学	100万円	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)補助金(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)(2021-2023)
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築にむけた研究	倉澤健太郎(分)	産婦人科学	70万円	補 委	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)(2022-2024)
出生と家庭に関するコホート研究:ハマスタディ	倉澤健太郎(分)	産婦人科学	(代表者一括計上)	補 委	学術的研究推進事業「YCU未来共創プロジェクト」第4期(2022-2023)
福島県内外での疾病動向の把握に関する調査研究	倉澤健太郎(協)	産婦人科学	(代表者一括計上)	補 委	環境省放射線健康管理・健康不安対策事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)
染色体異常モザイク胚から健常児が生まれるのはなぜか?	浜之上はるか(分)	産婦人科学	7万円	補 委	日本学術振興会/科学研究費助成事業/基盤研究(C)(2021-2023)
Supporting Japanese cancer patients in the US and to promote cancer prevention awareness activities for Japanese community in the US. Honjo-JMSA Scholarship.	鈴木幸雄(代)	産婦人科学	\$10,000	補 委	Honjo International Scholarship Foundation (HISF) and Japanese Medical Society of America (JMSA)
レセプトデータベースを用いた外科的閉経患者のホルモン補充療法の実態とその予後分析	鈴木幸雄(代)	産婦人科学	100万円	補 委	2021年度日本女性医学学会JMWH Bayer Grant
長期治療を要する女性疾患に対するホルモン治療の実態と予後予測:縦断研究と包括的臨床研究	鈴木幸雄(代)	産婦人科学	50万円	補 委	神澤医学研究振興財団 2022年度(第25回)海外留学助成金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低エストロゲン環境下の子宮筋腫縮小をMED12遺伝子変異から予測する	永井康一(代)	産婦人科学	90万円	補 委	関東連合産科婦人科学会臨床調査研究助成金(2022-2024)
産婦人科における内視鏡手術多施設データベース構築および情報支援内視鏡外科手術システム構築	永井康一(分)	産婦人科学	20万円	補 委	国立がん研究センター東病院受託研究費
子宮筋腫の遺伝子変異を同定する非侵襲的バイオマーカーの開発	永井康一(代)	産婦人科学	100万円	補 委	木原記念横浜生命科学振興財団 2022年度LIP. 横浜トライアル助成金
拡散強調画像を用いた子宮筋腫縮小因子の探索とイメージングバイオマーカーの開発	永井康一(代)	産婦人科学	150万円	補 委	公益財団法人 今井精一記念財団 研究助成金(2023.01-2024.12)
腎癌手術に対するAIを用いた手術中の構造物の自動認識モデルと手術教育支援システムの開発	蓼沼知之(代)	泌尿器科学	50万円	補 委	内視鏡医学研究振興財団研究助成(B)
人体幹の高精度力学シミュレーションの構築	槇山和秀(分)	泌尿器科学	290万円	補 委	文部科学省科学研究補助基金 基盤研究(B)(2020年度-2025年度)
希少腎癌の網羅的シーケンス解析に基づく発癌機構と新規治療薬開発	軸屋良介(代)	泌尿器科学	50万円	補 委	一般財団法人 鈴木泌尿器医学振興財団 令和4年度 研究費助成
筋骨格・骨のイメージベース力学解析の有機的連携構築と骨疾患の治療戦略抽出への展開	稲葉裕(分)	整形外科学	30万円	補 委	科研費・基盤研究B
人工膝・股関節置換術および脊椎インストゥルメンテーション手術部位感染の全国調査	稲葉裕(分)	整形外科学	10万円	補 委	科研費・基盤研究C
骨頭圧潰前の特発性大腿骨頭壊死症を対象としてbFGFゼラチン製剤の医師主導第Ⅲ相治験	稲葉裕(分)	整形外科学	870万円	補 委	AMED受託研究費
変形性関節症における力学的負荷に対しスクロスチンが関節軟骨に果たす役割の解明	熊谷研(代)	整形外科学	80万円	補 委	科研費・基盤研究C
骨軟部感染症に対するナノポアシークエンサーを用いた薬剤耐性菌と感染経路の同定	崔賢民(代)	整形外科学	120万円	補 委	科研費・基盤研究C
人工股関節全置換術における3次元歩行・動作解析を用いた脊椎―骨盤アライメント評価	池裕之(代)	整形外科学	150万円	補 委	科研費・若手研究
新規薬物療法開発に適した滑膜肉腫患者モデルの開発	川端佑介(代)	整形外科学	160万円	補 委	科研費・若手研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ラットの坐骨神経癒着モデルを用いた超音波ガイド下神経剥離術の薬剤選定	宮武和馬(代)	整形外科学	260万円	補 委	科研費・若手研究
端側神経縫合法を用いたハイブリッド型人工神経の実践的応用の検討	林礼人(代)	形成外科	449万円	補 委	科学研究費補助金事業 基盤(C)(R3-5)
長い神経欠損に対するハイブリッド型人工神経を用いた生体内再生治療	林礼人(分)	形成外科	442万円	補 委	科学研究費補助金事業 基盤(C)(R2-5)
低出力パルス超音波によるリンパ管再生誘導法の開発ーリンパ浮腫の予防を目指してー	北山晋也(代)	形成外科	351万円	補 委	科学研究費補助金事業 基盤(C)(R4-R6)
高解像度遅延造影MRIによる左房線維化評価:心房細動, 心不全における臨床的意	加藤真吾(代)	放射線診断学	143万円	補 委	義科学研究補助金事業若手研究(2019-2022)
冠動脈疾患におけるMRIの冠動脈血流予備能の有用性を検証する前向き多施設共同研究	加藤真吾(代)	放射線診断学	221万円	補 委	科学研究補助金事業 基盤(C)(2022-2026)
深層学習モデルを用いた脳核医学検査の画質改善および撮像時間短縮の検討	石渡義之(代)	放射線診断学	65万円	補 委	科学研究費助成事業若手研究(2020-2022)
喫煙・ギャンブル依存と自殺の遺伝的リスク関係の解明	菱本 明豊	精神医学	180万円	補 委	公益財団法人喫煙科学研究財団
ゲノムデータを囲った精神疾患患者における自殺リスクの予測と機序解明	菱本 明豊	精神医学	100万円	補 委	公益財団法人大樹生命厚生財団
自殺リスクの遺伝因子に関する国際共同研究	菱本 明豊	精神医学	200万円	補 委	日本学術振興会
ポリジェニックリスクスコアを用いた自殺リスクの予測と遺伝学的解明	菱本 明豊	精神医学	370万円	補 委	日本学術振興会
児童思春期の自殺企図リスクとテロメア長を関連付ける分子メカニズムの解明	須田 顕	精神医学	520万円	補 委	日本学術振興会
COVID-19流行下で働き始めた研修医・専攻医の縦断的バーンアウト調査	井出 恵子	精神医学	143万円	補 委	日本学術振興会
トランスオミクス解析による統合失調症の心血管系突然死の病態解明	服部 早紀	精神医学	195万円	補 委	日本学術振興会
MMP-9は認知症の新たな早期診断バイオマーカーになり得るか?	阿部 紀絵	精神医学	143万円	補 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
青年期のひきこもり者に対する遠隔健康医療相談の効果検証に関する研究	藤田 純一	児童精神科	650万	補委	日本学術振興会
全世代対応型遠隔メンタルヘルスケアシステム(KOKOROBO-J)によるメンタルヘルスプラットフォームの開発・社会実装拠点に関する横浜市立大学による研究開発	吉見 明香	精神医学	150万円	補委	科学技術振興機構(JST)
若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点	藤田 純一	児童精神科	1750万円	補委	科学技術振興機構(JST)
COVID-19等による社会変動下に即した応急的遠隔対応型メンタルヘルスケアの基盤システム構築と実用化促進にむけた効果検証	菱本 明豊	精神医学	50万円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬剤性パーキンソニズムのファーマコゲノミクスに関する医療実装開発	菱本 明豊	精神医学	250万円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AMPA 受容体密度を指標とした慢性疼痛患者の痛み定量化バイオマーカー開発研究	菱本 明豊	精神医学	248万円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	菱本 明豊	精神医学	530万円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
対面診療に比したオンライン診療の非劣勢試験: COVID 19によって最も影響を受け得る精神疾患に対するマスタープロトコル試験による検証	菱本 明豊	精神医学	360万円	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ベーチェット病とサルコイドーシスを対象としたマルチオミクス解析	水木信久(分)	眼科学	70万円	補委	科学研究補助金事業基盤(C)
HLAリスク因子陰性のベーチェット病患者を対象としたゲノムワイド関連解析	水木信久(分)	眼科学	50万円	補委	科学研究補助金事業基盤(C)
ゲノムデータに基づいた正常眼圧緑内障の発症パスウェイ解析	水木信久(分)	眼科学	120万円	補委	科学研究補助金事業基盤(C)
ベーチェット病の臨床亜群形成因子に基づく予後予測	水木信久(分)	眼科学	5万円	補委	科学研究補助金事業基盤(C)
ベーチェット病のゲノムワイド亜型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築	水木信久(分)	眼科学	15万円	補委	科学研究補助金事業基盤(B)
血清エクソソーム由来マイクロRNA解析によるベーチェット病のバイオマーカーの探索	竹内正樹(代)	眼科学	190万円	補委	科学研究補助金事業基盤(C)
ベーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国	水木信久(代), 竹内正樹(代)	眼科学	7,141,760円	補	(AMED)難治性疾患実用化研究事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
レジストリの構築	竹内正樹(代)			委	実用化研究事業
ベーチェット病に関する調査研究	水木信久(分)	眼科学	30万円	補 委	厚労科研
唾液腺発癌におけるEWSRA-ATF融合遺伝子の機能解析	折館伸彦(代)	耳鼻いんこう科	416万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(令和3-令5年度)
痙攣性発声障害レジストリを活用した診断基準及び重症度分類のバリデーション評価研究	折館伸彦(代)	耳鼻いんこう科	7万円	補 委	AMED難治性疾患実用化事業
痙攣性発声障害疾患レジストリを利用した診断基準及び重症度分類の妥当性評価と改訂に関する研究	折館伸彦(分)	耳鼻いんこう科	35万円	補 委	厚労科研難治性疾患政策研究事業
研究開発プロジェクト:がん難治がんの微小環境からみた新規バイオマーカーおよび治療法の開発	折館伸彦(代)	耳鼻いんこう科	200万円	補 委	横浜市立大学 第5期戦略的研究推進事業
神経を中心としたがん微小環境ネットワークの解明から拓く新規治療法の開発	高橋秀聡(代)	耳鼻いんこう科	1,742万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(B)(令和4-6年度)
シスプラチンによる遅発性悪心・嘔吐の原因と新しい治療法の検討;血清鉄過剰の解消	高橋秀聡(分)	耳鼻いんこう科	416万円	補 委	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤研究(C)(令和3-5年度)
唾液腺導管癌の癌微小環境における自律神経相互作用の臨床的・分子病理学的意義	高橋秀聡(分)	耳鼻いんこう科	416万円	補 委	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤研究(C)(令和3-5年度)
頭頸部扁平上皮癌オルガノイドの接触型共培養による転移リンパ節被膜外浸潤の機序解明	西村剛志(代)	耳鼻いんこう科	390万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(令和3-5年度)
癌関連神経を介したHPV関連中咽頭癌の薬剤耐性・治療抵抗性機構の解明	波多野 孝(代)	耳鼻いんこう科	416万円	補 委	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(令和4-6年度)
創傷治癒および全身性強皮症の血管障害における単球マクロファージの病態的関与	山口由衣(代)	皮膚科学	110万円	補 委	日本学術振興会 令和4年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)
単球・マクロファージ分化・形質異常に基づく全身性強皮症の病態解	山口由衣(代)	皮膚科学	300万円 (研究期間: 2021年度~ 2022年度)	補 委	日本皮膚科学会 令和3年度日本皮膚科学会皮膚医学研究基金(ロート製薬寄付)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	山口由衣(分)	皮膚科学	351万円	補 委	AMED 令和4年度日本医療研究開発機構研究費(医薬品等規制調和・評価研究事業)
ステロイド全身療法により効果不十分であったスティーヴンス・ジョンソン症候群(SJS)及び中毒性表皮壊死症(TEN)患者を対象とするエタネルセプト療法	山口由衣(分)	皮膚科学	260万円	補 委	AMED 令和4年度日本医療研究開発機構研究費(臨床研究・治験推進研究事業)
非HIV免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	山口由衣(分)	皮膚科学	42.9万円	補 委	AMED 令和4年度日本医療研究開発機構研究費(免疫アレルギー疾患実用化研究事業)
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	山口由衣(分)	皮膚科学	100万円	補 委	厚生労働省 令和4年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
重症薬疹の病態におけるγ-chainの役割	渡邊裕子(代)	皮膚科学	10万円	補 委	日本学術振興会 令和4年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究
全身性強皮症におけるIRF8発現異常に根差した線維化病態の解析	乙竹 泰(代)	皮膚科学	60万円	補 委	日本学術振興会 令和4年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究
Shear Stress and Endothelial Pathology in Intracranial Atherosclerosis.	Kitajima H (Co-investigator)	口腔外科学	\$10,330.08	補 委	National Institute of Health, Research Project (R01)(2020-2024)
口腔癌に対する磁気法によるセンチネルリンパ節生検の確立ーRI法との非劣性試験ー	岩井俊憲(代)	口腔外科学	70万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2018-2022年度)
口腔癌の治療抵抗性に関わるM2マクロファージの役割と治療戦略の構築	大久保牧子(代), 來生 知(分)	口腔外科学	130万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2022-2024年度)
院内で発生する飛沫・エアロゾルの可視化と最適な気流制御法の考案	大屋貴志(代)	口腔外科学	500万円	補 委	令和4年度学術的研究推進事業 YCU未来共創プロジェクト(2022年度-2023年度)
超小型磁気センサー内蔵のカテーテルナビゲーションシステムに関する研究	大屋貴志(代), 光藤健司(分)	口腔外科学	240万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(B)(2020-2024年度)
温熱療法とIL-1R阻害薬の臨床応用に向けた併用療法の開発	小栗千里(代)	口腔外科学	23万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2018-2023年度)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
患者由来口腔がんモデルの臨床的有用性(不均一性)を生かした新規治療戦略の創出	來生 知(代)	口腔外科学	429万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(B)(2020-2022年度)
口腔粘膜を用いた物理的刺激による組織学的・分子学的変化に関する多機関共同前向き観察研究	來生 知(代)	口腔外科学	50万円	補 委	共同研究費
数値流体力学によるシミュレーションを用いたオーダーメイド動注化学療法の開発	北島大朗(代)	口腔外科学	39万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究(2019-2022年度)
舌癌頸部リンパ節転移に関わる微小環境(ニッチ)の解明	杉浦 圭(代), 來生 知(分)	口腔外科学	117万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2022-2024年度)
口腔癌に対する腫瘍選択性磁性体を用いたハイパーサーミアによる低侵襲的治療の開発	藤内 祝(代), 光藤健司(分), 小泉敏之(分), 中鍛治里奈(分)	口腔外科学	377万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(B)(2020-2022年度)
口腔癌における交流磁場を持つ遊走能抑制効果の分子生物学的研究	光藤健司(代), 中鍛治里奈(分)	口腔外科学	104万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2022-2024年度)
口腔扁平上皮癌の悪性化に伴う間葉系および骨髄系間質細胞の免疫制御と調節因子の変化	光藤健司(分)	口腔外科学	104万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2020-2022年度)
進行口腔癌に対する動注養子免疫療法と免疫チェックポイント阻害剤併用療法の開発	光永幸代(代), 來生 知(分)	口腔外科学	112万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2018-2022年度)
免疫チェックポイント阻害薬耐性克服を目指した新規動注免疫療法の開発	光永幸代(代), 來生 知(分)	口腔外科学	117万円	補 委	科学研究助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(2022-2024年度)
顎矯正手術による閉塞性睡眠時無呼吸リスクを予測するための流体音響解析法の開発	矢島康治(代)	口腔外科学	35万円	補 委	横浜国立大学学術的研究推進事業
神奈川県におけるスモン患者の現状調査	久留 聡(代), 中村 健(分)	リハビリテーション科学	60万円	補 委	令和4年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
心疾患維持期患者におけるデジタルデバイスを利用した運動習慣獲得と医学的効果の検証	中村 健(代)	リハビリテーション科学	320万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)(3年計画1年目)
希少疾病・難病等の分野における診療ガイドライン等の評価に資する研究	堀田信之(代)	化学療法センター	702万円	補 委	厚労省科研費 地域医療基盤開発推進研究事業(令和4-5年度)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
機械学習により心電図データから換気障害を予測するアルゴリズムの構築	堀田信之(代)	化学療法センター	416万円	補 委	文科省科研費 基盤(C) (令和4-6年度)
体幹部放射線治療における呼吸性移動 - 四次元アルゴリズム解析と治療法の標準化 -	幡多政治(代)	放射線治療学	27万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
Impact of imaging conditions on the target delineation in radiotherapy planning.	Hata M(代)	放射線治療学	43万円	補 委	GE Healthcare Pharma Educational Grant
悪性腫瘍に対するRI内用療法の現状と課題: 普及に向けた取り組みと新規薬剤の開発に関する研究	幡多政治(代)	放射線治療学	20万円	補 委	PDRファーマ 医学・薬学に関する研究活動への支援
リン酸カルシウムペーストを用いた乳がん温存療法の研究	幡多政治(分)	放射線治療学	90万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
リン酸カルシウムペーストを用いた乳がんと前立腺がんの臨床研究	幡多政治(分)	放射線治療学	20万円	補 委	文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
収縮機能の保持された心不全におけるRANKL/RANK/OPGシステムの役割	上村 大輔	臨床検査部	104万円	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用における限界年齢と新規バイオマーカー探索に関する研究	山崎 悦子	臨床検査部	26万円	補 委	AMED
小児から成人をシームレスに対象としたB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	山崎 悦子	臨床検査部	28.6万円	補 委	AMED

計245

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ohashi T, Aoki J, Ando T, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Yokohama Cooperative Study Group for Hematology (YACHT): Clinical impact of cigarette smoking on the outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a multicenter retrospective study.	Bone Marrow Transplant, 57(7): 1124-1132, 2022	Original Article
2	Teshigawara- Tanabe H, Hagihara M, Aoki J, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Clinical risk factors for patients with myelodysplastic syndromes undergoing allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Hematology, 27(1): 620- 628, 2022	Original Article
3	Hidekawa C, Yoshimi R, Kishimoto D, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Anti-interferon- γ antibody- seropositive disseminated nontuberculous mycobacterial infection mimicking POEMS and TAFRO syndromes: a case report.	Internal Medicine, 61: 2377-2385, 2022	Case report
4	Higashitani K, Yoshimi R, Sato Y, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Rituximab and mepolizumab combination therapy for glucocorticoid-resistant myocarditis related to eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	Modern Rheumatology Case Reports, 6: 87-92, 2022	Case report
5	Iizuka Y, Takase- Minegishi K, Hirahara L, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Beneficial effects of apremilast on genital ulcers, skin lesions, and arthritis in patients with Behçet's disease: A systematic review and meta-analysis.	Modern Rheumatology, 32: 1153-1162, 2022	Original Article
6	Kato H, Okamoto R, Miyoshi S, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Expansion of droplets during speaking and singing in Japanese.	PLoS One, 17(8): e0272122, 2022	Original Article
7	Kato H, Miyakawa K, Ohtake N, et al.	血液・免疫・感染 症内科学	Vaccine-induced humoral response against SARS-CoV-2 dramatically declined but cellular immunity possibly remained at 6 months post BNT162b2 vaccination.	Vaccine, 40(19): 2652- 2655, 2022	Original Article
8	Fujii H, Nagakura H, Kobayashi N, et al.	呼吸器病学	Liquid biopsy for detecting epidermal growth factor receptor mutation among patients with non- small cell lung cancer treated with afatinib: a multicenter prospective study.	BMC Cancer, 22: 1035, 2022	Original Article
9	Fukuda N, Horita N, Namkoong H, et al.	呼吸器病学	Best regimens for treating chemo- naïve incurable squamous non- small cell lung cancer with a programmed death-ligand 1 tumor proportion score of 1%-49%: A network meta-analysis.	Thorac Cancer, 13: 84- 94, 2022	Original Article

10	Hara Y, Tsukiji J, Yabe A, et al.	呼吸器病学	Heme oxygenase-1 as an important predictor of the severity of COVID-19.	PLoS One, 17: e0273500, 2022	Original Article
11	Hara Y, Oshima Y, Tagami Y, et al.	呼吸器病学	Clinical importance of serum heme oxygenase-1 measurement in patients with acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis triggered by coronavirus disease 2019.	Respir Med Case Rep, 36:101615, 2022	Original Article
12	Horita N, Kato H, Watanabe K, et al.	呼吸器病学	Declined Mortality Due to Seasonal Influenza in Japan During the Coronavirus Disease 2019 Pandemic.	Clin Infect Dis, 74: 2081, 2022	Original Article
13	Horita N, Kato H, Watanabe K, et al.	呼吸器病学	Decline in mortality due to respiratory diseases in Japan during the coronavirus disease 2019 pandemic.	Respirology, 27: 175-176, 2022	Original Article
14	Watanabe K, Horita N, Hara Y, et al.	呼吸器病学	Use of Systemic Corticosteroids for Reasons Other than Asthma in Subjects with Asthma.	Respiration, 101: 109-115, 2022	Original Article
15	Matsumoto H, Kobayashi N, Shinoda S, et al.	呼吸器病学	Regional differences in epidermal growth factor receptor-tyrosine kinase inhibitor therapy in lung cancer treatment using a national database in Japan.	Sci Rep. 2023 Mar 30;13(1): 5208	Original Article
16	Fujii H, Hara Y, Saigusa Y, et al.	呼吸器病学	ILD-GAP Combined with the Charlson Comorbidity Index Score (ILD-GAPC) as a Prognostic Prediction Model in Patients with Interstitial Lung Disease.	Can Respir J. 8;2023:5088207, 2023 Feb.	Original Article
17	Kamimura D, Yimer WK, Shah AM, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Vitamin D Levels in Black Americans and the Association With Left Ventricular Remodeling and Incident Heart Failure With Preserved Ejectin Fraction: The Jackson Heart Study.	J Card Fail. 2023 Feb;29(2):150-157	Original Article
18	Gohbara M, Iwahashi N, Okada K, Nitta M, et al.	循環器内科学	A Simple Risk Score to Differentiate Between Coronary Artery Obstruction and Coronary Artery Spasm of Patients With Acute Coronary Syndrome Without Persistent ST-Segment Elevation.	Circ J. 2022 May 21. doi: 10.1253/circj. CJ-22-0096	Original Article
19	Nitta M, Kaneko M, Shimizu S, et al.	循環器内科学	Impaired Left Atrial Function in Patients with Atrial Septal Defect and History of Atrial Fibrillation: A Multicenter Retrospective Cohort Study.	Int H J. 2022; 63(5): 864-873	Original Article
20	Nitta M.	循環器内科学	Posterior perspective of three-dimensional transesophageal echocardiogram in evaluating the superior rim in a patient with ostium secundum atrial septal defect: a case report.	J Echocardiogr. 2023 Feb 16. doi: 10.1007/s12574-023-00597-w. Epub ahead of print.	Case report

21	Taguchi Y, Matsumoto K, Shoda M, Nitta M, et al.	循環器内科学	19. A case of successful catheter ablation for biatrial reentrant tachycardia after a Mustard operation for dextro-transposition of the great arteries.	HeartRhythm Case Rep. 2022; 9(3):140-143	Others
22	Abe E, Yamashita A, Hirota K, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Author Correction: Angiotensin II type-1 receptor-associated protein interacts with transferrin receptor-1 and promotes its internalization.	Sci Rep: 9;12(1)21322, 2022, 12	Original Article
23	Azushima K, Wakui H, Tamura K.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Impact of the COVID-19 pandemic on physical and psychological activities in elderly patients with hypertension.	Hypertens Res, 46(1): 266-267, 2023, 1	Original Article
24	Haze T, Yano Y, Hatano Y, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	JPAS/JRAS Study Group: Association of achieved blood pressure after treatment for primary aldosteronism with long-term kidney function.	J Hum Hypertens, 36(10): 904-910, 2022, 10	Original Article
25	Kanai D, Wakui H, Haze T, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	SARS-CoV-2 spike protein antibody titers 6 months after SARS-CoV-2 mRNA vaccination among patients undergoing hemodialysis in Japan.	Clin Exp Nephrol, 26(10): 988-996, 2022, 10	Original Article
26	Kanai D, Wakui H, Haze T, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Improved Immune Response to the Third COVID-19 mRNA Vaccine Dose in Hemodialysis Patients.	Kidney Int Rep, 7(12): 2718-2721, 2022, 12	Original Article
27	Kanai D, Wakui H, Hanaoka M, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Blunted humoral immune response to the fourth dose of BNT162b2 COVID-19 vaccine in patients undergoing hemodialysis.	Clinical and Experimental Nephrology, 2023, 3	Original Article
28	Kato S, Azuma M, Fukui K, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Cardiac involvement in coronavirus disease 2019 assessed by cardiac magnetic resonance imaging: a meta-analysis.	Heart Vessels, 37(9): 1570-1582, 2022, 9	Original Article
29	Kawaura N, Nakashima-Sasaki R, Doi H, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Upper-Arm SBP Decline Associated with Repeated Cuff-Oscillometric Inflation Significantly Correlated with the Arterial Stiffness Index.	J Clin Med, 11(21): 6455, 2022, 10	Original Article
30	Konishi M, Kojima S, Uchiyama K, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Febuxostat for Cerebral and Cardiorenovascular Events Prevention Study (FREED) investigators. Effect of febuxostat on clinical outcomes in patients with hyperuricemia and cardiovascular disease.	Int J Cardiol, 349: 127-133, 2022, 7	Original Article
31	Konishi M, Kaneko H, Itoh H, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Association of weight change and in-hospital mortality in patients with repeated hospitalization for heart failure.	J Cachexia Sarcopenia Muscle, 14(1): 642-652, 2023, 2	Original Article
32	Konishi M, Akiyama E, Matsuzawa Y, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Prognostic impact of upper and lower extremity muscle mass in heart failure.	ESC Heart Fail, 10(1): 732-737, 2023, 2	Original Article

33	Minegishi S, Kinguchi S, Horita N, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Japanese Society of Hypertension working group “Onco-Hypertension”: Immune Checkpoint Inhibitors Do Not Increase Short-Term Risk of Hypertension in Cancer Patients: a Systematic Literature Review and Meta-Analysis.	Hypertension, 79(11): 2611-2621, 2022, 9	Original Article
34	Narikawa M, Kiyokuni M, Taguchi Y, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Successful Implantation of left ventricular lead for a cardiac resynchronization therapy defibrillator through a persistent left superior vena cava using the anchor balloon technique.	Journal of cardiology cases, 25(5):308-311, 2022, 5	Original Article
35	Tamura K, Kumagai T, Kobayashi K.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Possible clinical usefulness of polygenic risk scores among patients with established atherosclerotic cardiovascular disease.	Atherosclerosis, 350: 100-101, 2022, 6	Original Article
36	Taguchi Y, Matsumoto K, Shoda M, Jyunya H, Ishikawa T.	循環器・腎臓・高血圧内科学	A case of successful catheter ablation for biatrial reentrant tachycardia after a Mustard operation for dextro-transposition of the great arteries.	HeartRhythm Case Report, 9(3): 140-143, 2022, 12	Case report
37	Tsukamoto S, Urate S, Yamada T, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Comparative Efficacy of Pharmacological Treatments for Adults with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease: A Systematic Review and Network Meta-Analysis of Randomized Controlled Trials.	Frontiers in pharmacology, 13: 885457, 2022, 5	Original Article
38	Tsukamoto S, Morita R, Yamada T, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Cardiovascular and kidney outcomes of combination therapy with sodium-glucose cotransporter-2 inhibitors and mineralocorticoid receptor antagonists in patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease: A systematic review and network meta-analysis.	Diabetes research and clinical practice, 194: 110161, 2022, 11	Original Article
39	Tsukamoto S, Wakui H, Tamura K.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Effects of Uric Acid-Lowering Therapy on the Kidney (HTR-2023-0096.R2).	Hypertens Res, 46(6): 1447-1449, 2023, 1	Original Article
40	Ueda E, Fujikawa T, Toya Y, et al.	循環器・腎臓・高血圧内科学	Clinical significance of a novel reticulocyte-based erythropoietin resistance index in HD patients: A retrospective study.	Ther Apher Dial, 26(5): 915-923, 2022, 10	Original Article
41	Wakui H, Ozawa M, Tamura K.	循環器・腎臓・高血圧内科学	TRPC5 as a possible therapeutic target for vascular dysfunction associated with obesity.	Hypertens Res, 45(12): 2018-2020, 2022, 9	Original Article
42	Ikeda R, Hirasawa K, Ozeki Y, et al.	消化器内科学	Cervical esophageal adenocarcinoma of intestinal type in ectopic gastric mucosa.	DEN open, 3(1): e141, 2022	Case report
43	Sue S, Kondo M, Sato T, et al.	消化器内科学	Vonoprazan and high-dose amoxicillin dual therapy for Helicobacter pylori first-line eradication: A single-arm, interventional study.	JGH Open, 7(1): 55-60, 2022	Original Article

44	Ikeda A, Kunisaki R, Aoki S, et al.	消化器内科学	Appropriate Preconception Corticosteroid-Free Remission Period in Pregnant Women With Ulcerative Colitis.	Inflamm Bowel Dis, 14; izac270, 2023	Original Article
45	Iwata Y, Iwata Y, Iida H, Inamori M, Maeda S.	消化器内科学	Using a Smartphone Application as a Tool for English Learning Among Medical Staff and Students in Japan.	Adv Med Educ Pract, 28; 14:167-182, 2023 Feb 28	Original Article
46	Kunihiro Hosono, Takamitsu Sato, Sho Hasegawa, et al.	肝胆膵消化器病学	Learning Curve of Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Using Single-Balloon Enteroscopy.	Dig Dis Sci. 2022 Jul; 67(7): 2882-2890	Original Article
47	Atsushi Nakajima, Sonoko Ishizaki, Kazuki Matsuda, et al.	肝胆膵消化器病学	Impact of elobixibat on serum and fecal bile acid levels and constipation symptoms in patients with chronic constipation.	J Gastroenterol Hepatol. 2022 May; 37(5): 883-890	Original Article
48	Yusuke Kurita, Kazuo Hara, Noritoshi Kobayashi, et al.	肝胆膵消化器病学	Detection rate of endoscopic ultrasound and computed tomography in diagnosing pancreatic neuroendocrine neoplasms including small lesions: A multicenter study.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Aug; 29(8): 950-959	Original Article
49	Takuma Higurashi, Keiichi Ashikari, Shigeki Tamura, et al.	肝胆膵消化器病学	Comparison of the diagnostic performance of NBI, Laser-BLI and LED-BLI: a randomized controlled noninferiority trial.	Surg Endosc. 2022 Oct; 36(10): 7577-7587	Original Article
50	Sho Hasegawa, Noritoshi Kobayashi, Damian Wild, et al.	肝胆膵消化器病学	Factors Contributing to Tumor Shrinkage after Peptide Receptor Radionuclide Therapy in Patients with Unresectable Neuroendocrine Tumors.	Cancers (Basel). 2022 Jul 7; 14(14): 3317	Original Article
51	Keiichi Ashikari, Hideyuki Chiba, Atsushi Nakajima	肝胆膵消化器病学	Endoscopic submucosal dissection without intubation for superficial pharyngeal cancer in a post-total laryngectomy patient.	Dig Endosc. 2022 Jul; 34(5): e98-e100	Original Article
52	Yusuke Kurita, Noritoshi Kobayashi, Kazuo Hara, et al.	肝胆膵消化器病学	Effectiveness and Prognostic Factors of Everolimus in Patients with Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms.	Intern Med. 2023 Jan 15; 62(2): 159-167	Original Article
53	Masato Yoneda, Takashi Kobayashi, Yasushi Honda, et al.	肝胆膵消化器病学	Combination of tofogliflozin and pioglitazone for NAFLD: Extension to the ToPiND randomized controlled trial.	Hepatol Commun. 2022 Sep; 6(9): 2273-2285	Original Article
54	Kunihiro Hosono, Shin Yagi, Yusuke Kurita, et al.	肝胆膵消化器病学	A safe needle-knife precut papillotomomy technique in a patient with a naïve papilla and surgically altered anatomy.	Endoscopy. 2022 Dec; 54(S 02): E923-E924	Original Article

55	Motokazu Sato, Yusuke Kurita, Eiji Sakai, et al.	肝胆胰消化器病学	Computed diffusion-weighted magnetic resonance imaging with high b-values in the diagnosis of gallbladder lesions.	Abdom Radiol (NY). 2022 Sep; 47(9): 3278-3289	Original Article
56	Kosuke Tanaka, Takaomi Kessoku, Atsushi Yamamoto, et al.	肝胆胰消化器病学	Rationale and design of a multicentre, 12-week, randomised, double-blind, placebo-controlled, parallel-group, investigator-initiated trial to investigate the efficacy and safety of elobixibat for chronic constipation.	BMJ Open. 2022 May 30; 12(5): e060704	Original Article
57	Atsushi Nakajima, Mio Fujimaki, Yuki Arai, Kento Emori	肝胆胰消化器病学	Safety and Efficacy of Elobixibat, an Ileal Bile Acid Transporter Inhibitor, in Elderly Patients With Chronic Idiopathic Constipation According to Administration Time: Interim Analysis of Post-marketing Surveillance.	J Neurogastroenterol Motil. 2022 Jul 30; 28(3): 431-441	Original Article
58	Michihiro Iwaki, Takaomi Kessoku, Kosuke Tanaka, et al.	肝胆胰消化器病学	Efficacy and safety of guanabenz acetate treatment for non-alcoholic fatty liver disease: a study protocol for a randomised investigator-initiated phase IIa study.	BMJ Open. 2022 Jul 12; 12(7): e060335	Original Article
59	Yusuke Kurita, Kensuke Kubota, Ko Suzuki, et al.	肝胆胰消化器病学	Request for biliary drainage for IgG4-SC could be waived before steroid administration?	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Mar; 30(3): 392-400	Original Article
60	Shin Yagi, Yusuke Kurita, Takamitsu Sato, et al.	肝胆胰消化器病学	Utility of Fine-Gauge Balloon Catheter for EUS-Guided Hepaticogastrostomy.	J Clin Med. 2022 Sep 26; 11(19): 5681	Original Article
61	Michihiro Iwaki, Takaomi Kessoku, Kosuke Tanaka, et al.	肝胆胰消化器病学	Comparison of long-term prognosis between non-obese and obese patients with non-alcoholic fatty liver disease.	JGH Open. 2022 Aug 24; 6(10): 696-703	Original Article
62	Takashi Kobayashi, Yuji Ogawa, Satoru Shinoda, et al.	肝胆胰消化器病学	A 3-step approach to predict advanced fibrosis in nonalcoholic fatty liver disease: impact on diagnosis, patient burden, and medical costs.	Sci Rep. 2022 Oct 28; 12(1): 18174	Original Article
63	Takuma Higurashi, Keiichi Ashikari, Shigeki Tamura, et al.	肝胆胰消化器病学	Leukotriene Receptor Antagonist Therapy for the Chemoprevention of Human Rectal Aberrant Crypt Foci: Nonrandomized, Open-Label, Controlled Trial.	Cancer Prev Res (Phila). 2022 Oct 4; 15(10): 661-668	Original Article
64	Yasushi Honda, Masato Yoneda, Takashi Kobayashi, et al.	肝胆胰消化器病学	Meta-analysis of the diagnostic accuracy of serum type IV collagen 7S concentration for the staging of liver fibrosis in nonalcoholic fatty liver disease.	Hepatol Res. 2023 Mar; 53(3): 219-227	Original Article

65	Motokazu Sato, Yusuke Kurita, Eiji Sakai, et al.	肝胆胰消化器病学	Computed diffusion-weighted magnetic resonance imaging with high b-values in the diagnosis of gallbladder lesions.	Abdom Radiol (NY). 2022 Sep; 47(9): 3278-3289	Original Article
66	Yusuke Kurita, Ko Suzuki, Shin Yagi, et al.	肝胆胰消化器病学	Pre-emptive hydration with lactated Ringer's solution could reduce the incidence of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis in at-risk patients: Propensity score-matched analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Jun; 30(6): 777-783. Epub 2022 Nov 23	Original Article
67	Tsutomu Yoshihara, Takaomi Kessoku, Tomohiro Takatsu, et al.	肝胆胰消化器病学	Exploratory, multicenter, open-label study to evaluate the effects of linaclotide in patients with chronic constipation with an insufficient response to magnesium oxide: A study protocol.	Contemp Clin Trials Commun. 2022 Oct 28; 30: 101019	Original Article
68	Asako Nogami, Michihiro Iwaki, Takashi Kobayashi, et al.	肝胆胰消化器病学	Real-world assessment of SmartExam, a novel FibroScan computation method: A retrospective single-center cohort study.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 Feb; 38(2): 321-329	Original Article
69	Yusuke Kurita, Noritoshi Kobayashi, Kazuo Hara, et al.	肝胆胰消化器病学	Clinical Outcomes of Everolimus Rechallenge in Patients with Pancreatic Neuroendocrine Neoplasms with No Other Treatment Options.	Cancers (Basel). 2022 Nov 18; 14(22): 5669	Original Article
70	Asako Nogami, Masato Yoneda, Michihiro Iwaki, et al.	肝胆胰消化器病学	Diagnostic comparison of vibration-controlled transient elastography and MRI techniques in overweight and obese patients with NAFLD.	Sci Rep. 2022 Dec 19; 12(1): 21925	Original Article
71	Michihiro Iwaki, Takashi Kobayashi, Asako Nogami, et al.	肝胆胰消化器病学	Impact of Sarcopenia on Non-Alcoholic Fatty Liver Disease.	Nutrients. 2023 Feb 10; 15(4): 891	Original Article
72	Masato Yoneda, Takashi Kobayashi, Nogami Asako, et al.	肝胆胰消化器病学	Pan-peroxisome proliferator-activated receptor agonist lanifibranor as a dominant candidate pharmacological therapy for nonalcoholic fatty liver disease.	Hepatobiliary Surg Nutr. 2022 Jun; 11(3): 433-435	Review
73	Takashi Kobayashi, Michihiro Iwaki, Atsushi Nakajima, et al.	肝胆胰消化器病学	Current Research on the Pathogenesis of NAFLD/NASH and the Gut-Liver Axis: Gut Microbiota, Dysbiosis, and Leaky-Gut Syndrome.	Int J Mol Sci. 2022 Oct 2; 23(19): 11689	Review
74	Asako Nogami, Masato Yoneda, Michihiro Iwaki, et al.	肝胆胰消化器病学	Non-invasive imaging biomarkers for liver steatosis in NAFLD: present and future.	Clin Mol Hepatol. 2023 Feb; 29(Suppl): S123-S135	Review

75	Kobayashi T, Iwaki M, Nogami A, et al.	肝胆膵消化器病学	Involvement of Periodontal Disease in the Pathogenesis and Exacerbation of Nonalcoholic Fatty Liver Disease/Nonalcoholic Steatohepatitis: A Review.	Nutrients. 2023 Mar 3; 15(5): 1269	Review
76	Inoue R, Tsuno T, Togashi Y, et al.	内分泌・糖尿病内科	Uncoupling protein 2 and aldolase B impact insulin release by modulating mitochondrial function and Ca ²⁺ release from the ER.	iScience, 25(7): 104603, 2022	Original Article
77	Kyohara M, Miyashita D, Inoue R, et al.	内分泌・糖尿病内科	Association between circulating SerpinB1 levels and insulin sensitivity in Japanese with type 2 diabetes: A single-center, cross-sectional, observational study.	PLoS One, 17(11): e0276915, 2022	Original Article
78	Li J, Inoue R, Togashi Y, et al.	内分泌・糖尿病内科	Imeglimin ameliorates beta-cell apoptosis by modulating the endoplasmic reticulum homeostasis pathway.	Diabetes, 71(3): 424-439, 2022	Original Article
79	Miyashita D, Inoue R, Tsuno T, et al.	内分泌・糖尿病内科	Protective effects of S100A8 on sepsis mortality: links to sepsis risk in obesity and diabetes.	iScience, 25(12): 105662, 2022	Original Article
80	Togashi Y, Miyashita D, Tsuno T, et al.	内分泌・糖尿病内科	Abdominal aortic calcification is associated with Fibrosis-4 index and low body mass index in type 2 diabetes patients: A retrospective cross-sectional study.	J Diabetes Investig, 13(11): 1861-1872, 2022	Original Article
81	Asano T, Nakamura H, Kawamoto Y, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Inhibition of Crmp1 phosphorylation at Ser522 ameliorates motor function and neuronal pathology in amyotrophic lateral sclerosis model mice.	eNeuro 9(3): 0133-22, 2022 May	Original Article
82	Kawamoto Y, Tada M, Asano T, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Phosphorylated CRMP1, axon guidance protein, is a component of spheroids and is involved in axonal pathology in amyotrophic lateral sclerosis.	Front Neurol 13:994676, 2022. May	Original Article
83	Koyano S, Yagishita S, Tada M, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Parallel appearance of polyglutamine and Transactivation-responsive DNA-binding protein 43 and their complementary subcellular localization in brains of patients with spinocerebellar ataxia type 2.	J Neuropathol Exp Neurol 81(7):535-544, 2022, Jun.	Original Article
84	Morihara K, Ota S, Kakinuma K, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Buccofacial apraxia in primary progressive aphasia.	Cortex 158:61-70, 2023, Jan.	Original Article
85	Ogasawara A, Takeuchi H, Komiya H, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Anti-inflammatory effects of siponimod on astrocytes.	Neurosci Res 184:38-46, 2022, Nov.	Original Article

86	Watanabe D, Tsukamoto H, Abe T, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Ultrasonographic evaluation reveals thinning of cervical nerve roots and peripheral nerves in spinal and bulbar muscular atrophy.	Neurol Sci 43(7): 4267–4274, 2022, Jul.	Original Article
87	Hamanaka K, Miyake N, Mizuguchi T, et al.	遺伝学	Large-scale discovery of novel neurodevelopmental disorder-related genes through a unified analysis of single-nucleotide and copy number variants.	Genome Med 14(1):40, 2022, Apr.	Original Article
88	Itai T, Wang Z, Nishimura G, et al.	遺伝学	De novo heterozygous variants in KIF5B cause kyphomelic dysplasia.	Clin Genet 102(1):3–11, 2022, Jul.	Original Article
89	Johkura K, Kudo Y, Takahashi K.	神経内科学・脳卒中医学	" Positional " upbeat nystagmus in medullary lesions.	Acta Neurol Belg 122(3): 837–839, 2022, Jun.	Case report
90	Johkura K, Takahashi K.	神経内科学・脳卒中医学	A paradox in the video head impulse test.	J Neurol Sci 441:120378, 2022, Oct.	Letter
91	Johkura K, Takahashi K.	神経内科学・脳卒中医学	Multiple driving forces may be involved in head rotation by a hanger.	J Neurol Sci 442:120419, 2022, Nov.	Letter
92	Katsumoto A, Kokiko-Cochran ON, Bemiller SM, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Triggering receptor expressed on myeloid cells 2 deficiency exacerbates injury-induced inflammation in a mouse model of tauopathy.	Front Immunol 13: 978423, 2022, Nov.	Original Article
93	Kameyama S, Mizuguchi T, Doi H, et al.	遺伝学	Patients with biallelic GGC repeat expansions in NOTCH2NLC exhibiting a typical neuronal intranuclear inclusion disease phenotype.	Genomics 114(5):110469, 2022, Sep.	Case report
94	Kobayashi E, Kanno S, Kawakami N, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Risk factors for unfavourable outcomes after shunt surgery in patients with idiopathic normal-pressure hydrocephalus.	Sci Rep 12(1):13921, 2022, Aug.	Original Article
95	Miyatake S, Yoshida K, Koshimizu E, et al.	遺伝学	Repeat conformation heterogeneity in cerebellar ataxia, neuropathy, vestibular areflexia syndrome.	Brain 145(3):1139–1150, 2022	Original Article
96	Morihara K, Nakano T, Mori K, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Usefulness of rapid MR angiography using two-point Dixon for evaluating carotid and aortic plaques.	Neuroradiology 64(4): 693–702, 2022, Apr.	Original Article
97	Miyatake S, Koshimizu E, Fujita A, et al.	遺伝学	Rapid and comprehensive diagnostic method for repeat expansion diseases using nanopore sequencing.	NPJ Genom Med 7(1):62, 2022, Oct.	Original Article
98	Morihara K, Higashiyama Y, Asano S, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Seen by a Glance, but not by a stare—a case study of a patient with simultanagnosia.	Arch Clin Neuropsychol 37(4):65–871, 2022, May	Case report

99	Ogata S, Ishii Y, Asano K, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Sensory Ataxic Guillain-Barré Syndrome with Dysgeusia after mRNA COVID-19 Vaccination.	Intern Med 61(11):1757-1760, 2022, Jun.	Case report
100	Wada T, Higashiyama Y, Kunii M, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Ocular flutter as the presenting manifestation of autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy.	Clin Neurol Neurosurg 219:107307, 2022, May	Case report
101	Higashiyama Y, Kuroki M, Kudo Y, et al.	神経内科学・脳卒中医学	Reduced likelihood of the Poggendorff illusion in cerebellar strokes: a clinical and neuroimaging study.	Brain Commun. 2023 Mar 6;5(2):fcad053	Original Article
102	Koizumi R, Kato H, Akagi A, et al.	神経内科学・脳卒中医学	An autopsy case of copper deficiency myelopathy and selenium deficiency-associated central nervous system disorder after total parenteral nutrition.	J Neurol Sci. 2023 Mar 26;448:120636	Case report
103	Ichikawa Y, Kobayashi N, Takano S, et al.	がん総合医科学	Neuroendocrine tumor theranostics.	Cancer Science, 113(6): 1930-1938, 2022	Original Article
104	Sato M, Kurita Y, Sakai E, et al.	がん総合医科学	Computed diffusion-weighted magnetic resonance imaging with high b-values in the diagnosis of gallbladder lesions.	Abdominal radiology (New York), 47(9): 3278-3289, 2022	Original Article
105	Tamagawa H, Aoyama T, Numata M, et al.	外科治療学	Impact of Infectious Complications on Survival and Recurrence of Patients With Stage II/III Colorectal Cancer: A Multicenter Retrospective Study.	Anticancer Research, 42(5): 2763-2769, 2022	Original Article
106	Aoyama T, Komori K, Nakazono M, et al.	外科治療学	The Clinical Influence of the CONUT Score on Survival of Patients With Gastric Cancer Receiving Curative Treatment.	In vivo 36(2):942-948, 2022	Original Article
107	Aoyama T, Komori K, Tamagawa A, et al.	外科治療学	Clinical Influence of the Lymph Node Ratio on Lymph Node Metastasis-positive Gastric Cancer Patients Who Receive Curative Treatment.	In vivo 36(2): 994-1000, 2022	Original Article
108	Aoyama T, Yoshikawa T, Ida S, et al.	外科治療学	Effects of perioperative eicosapentaenoic acid-enriched oral nutritional supplement on the long-term oncological outcomes after total gastrectomy for gastric cancer.	Oncology Letter, 23(5):151, 2022	Original Article
109	Aoyama T, Ju M, Komori K, et al.	外科治療学	Clinical Impact of Platelet-to-albumin Ratio on Esophageal Cancer Patients Who Receive Curative Treatment.	In Vivo, 36(4): 1896-1902, 2022	Original Article
110	Aoyama T, Ju M, Komori K, et al.	外科治療学	The Platelet-to-Lymphocyte Ratio Is an Independent Prognostic Factor for Patients With Esophageal Cancer Who Receive Curative Treatment.	In Vivo, 36(4): 1916-1922, 2022	Original Article

111	Aoyama T, Maezawa Y, Cho H, et al.	外科治療学	Phase II Study of a Multi-center Randomized Controlled Trial to Evaluate Oral Vitamin B12 Treatment for Vitamin B12 Deficiency After Total Gastrectomy in Gastric Cancer Patients.	Anticancer Research, 42(8): 3963–3970, 2022	Original Article
112	Aoyama T, Hara K, Kazama K, et al.	外科治療学	Clinical Impact of Nutrition and Inflammation Assessment Tools in Gastric Cancer Treatment.	Anticancer Research, 42(11): 5167–5180, 2022	Review
113	Aoyama T, Maezawa Y, Hara K, et al.	外科治療学	The Clinical Impact of Other Primary Cancer in Patients Who Received Curative Treatment for Esophageal Cancer.	Anticancer Research, 42(11): 5635–5641, 2022	Original Article
114	Ju M, Aoyama T, Komori K, et al.	外科治療学	The Albumin–Bilirubin Score is a Prognostic Factor for Gastric Cancer Patients Who Receive Curative Treatment.	Anticancer Research, 42(8): 3929–3935, 2022	Original Article
115	Ju M, Aoyama T, Fukuda M, et al.	外科治療学	Prognostic Value of the Perioperative Systemic Inflammation Score for Patients With Curatively Resected Gastric Cancer.	Cancer Diagnosis and Prognosis, 2(6): 627–633, 2022	Original Article
116	Inafuku K, Sekine A, Arai H, et al.	外科治療学	Radiological unilateral pleuroparenchymal fibroelastosis as a notable late complication after lung cancer surgery: incidence and perioperative associated factors.	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery, 35(4): ivac223, 2022	Original Article
117	Matsuyama R, Mori R, Ota Y, et al.	消化器・腫瘍外科学	Impact of Gemcitabine Plus S1 Neoadjuvant Chemotherapy on Borderline Resectable Perihilar Cholangiocarcinoma.	Ann Surg Oncol, 29(4): 2393–2405, 2022	Original Article
118	Ishibe A, Watanabe J, Suwa Y, et al.	消化器・腫瘍外科学	A Prospective, Single-arm, Multicenter Trial of Diverting Stoma Followed by Neoadjuvant Chemotherapy Using mFOLFOX6 for Obstructive Colon Cancer: YCOG 1305 (PROBE Study).	Ann Surg, 276(1): 140–145, 2022	Original Article
119	Homma Y, Endo I, Matsuyama R, et al.	消化器・腫瘍外科学	Outcomes of lung metastasis from pancreatic cancer: A nationwide multicenter analysis.	J Hepatobiliary Pancreat Sci, 29(5): 552–561, 2022	Original Article
120	Yamada A, Hayashi N, Kumamaru H, et al.	消化器・腫瘍外科学	Prognostic impact of postoperative radiotherapy in patients with breast cancer and with pT1–2 and 1–3 lymph node metastases: A retrospective cohort study based on the Japanese Breast Cancer Registry.	Eur J Cancer, 172: 31–40, 2022	Original Article
121	Oshi M, Gandhi S, Yan L, et al.	消化器・腫瘍外科学	Abundance of reactive oxygen species (ROS) is associated with tumor aggressiveness, immune response, and worse survival in breast cancer.	Breast Cancer Res Treat, 194(2): 231–241, 2022	Original Article

122	Oshi M, Patel A, Wu R, et al.	消化器・腫瘍外科学	Enhanced immune response outperform aggressive cancer biology and is associated with better survival in triple-negative breast cancer.	NPJ Breast Cancer, 8(1): 92, 2022	Original Article
123	Oshi M, Sarkar J, Tokumaru Y, et al.	消化器・腫瘍外科学	Higher intra-tumoral expression of pro-coagulation genes is a predictor of angiogenesis, epithelial mesenchymal transition and worse patient survival in gastric cancer.	Am J Cancer Res, 12(8): 4001-4014, 2022	Original Article
124	Oshi M, Gandhi S, Wu R, et al.	消化器・腫瘍外科学	Development of a novel BRCAness score that predicts response to PARP inhibitors.	Biomark Res, 10(1): 80, 2022	Original Article
125	Oshi M, Tokumaru Y, Benesch MG, et al.	消化器・腫瘍外科学	High miR-99b expression is associated with cell proliferation and worse patient outcomes in breast cancer.	Am J Cancer Res, 12(10): 4840-4852, 2022	Original Article
126	Oshi M, Roy AM, Gandhi S, et al.	消化器・腫瘍外科学	The clinical relevance of unfolded protein response signaling in breast cancer.	Am J Cancer Res, 12(6): 2627-2640, 2022	Original Article
127	Cherkassky L, Oshi M, Abdelfatah E, et al.	消化器・腫瘍外科学	An immune-inflamed tumor microenvironment as defined by CD8 score is associated with favorable oncologic outcomes in hepatocellular carcinoma independent of measures of tumor mutational burden.	Am J Cancer Res, 12(7): 3099-3110, 2022	Original Article
128	Takahashi H, Oshi M, Yan L, et al.	消化器・腫瘍外科学	Gastric cancer with enhanced apical junction pathway has increased metastatic potential and worse clinical outcomes.	Am J Cancer Res, 12(5): 2146-2159, 2022	Original Article
129	Ohya H, Watanabe J, Suwa H, et al.	消化器・腫瘍外科学	Near-Infrared Imaging Using Indocyanine Green for Laparoscopic Lateral Pelvic Lymph Node Dissection for Clinical Stage II/III Middle-Lower Rectal Cancer: A Propensity Score-Matched Cohort Study.	Dis Colon Rectum, 65(7): 885-893, 2022	Original Article
130	Toyoda J, Sahara K, Maithel SK, et al.	消化器・腫瘍外科学	Prognostic Utility of Systemic Immune-Inflammation Index After Resection of Extrahepatic Cholangiocarcinoma: Results from the U.S. Extrahepatic Biliary Malignancy Consortium.	Ann Surg Oncol, 29(12): 7605-7614, 2022	Original Article
131	Endo I.	消化器・腫瘍外科学	Newsletter	J Hepatobiliary Pancreat Sci: 30(1): 3, 2023 Jan.	Letter
132	Araya K, Fukuda M, Mihara T, et al.	麻醉科学	Association Between Anxiety and Depressive Symptoms During Prehospitalization Waiting Period and Quality of Recovery at Postoperative Day 3 in Perioperative Cancer Patients.	J Perianesth Nurs, 37(5): 654-661, 2022	Original Article

133	Idei M, Seino Y, Sato N, et al.	麻醉科学	Catheter-related thrombosis after cardiac surgery in patients with both central venous and pulmonary artery catheters inserted into the right internal jugular vein: a single-center, prospective, observational study.	Heart Vessels, 37(4): 691-696, 2022	Original Article
134	Enomoto Y, Matsuda Y, Nagamine Y, Goto T.	麻醉科学	Venoarterial-extra corporeal membrane oxygenation-assisted parathyroidectomy for hypercalcemic crisis due to parathyroid carcinoma complicated by severe circulatory and respiratory failure: a case report.	JA Clin Rep. 9(1):14, 2023 Mar.	Case report
135	Goto S, Ishikawa JY, Idei M, Nomura T.	麻醉科学	False-Positive cuff leak test due to Glossoptosis.	Am J Respir Crit Care Med, 205(2): e4-e5, 2022	Original Article
136	Matsui K, Sato N, Idei M, et al.	麻醉科学	An Automated Algorithm for Determining Sleep Using Single-Channel Electroencephalography to Detect Delirium: A Prospective Observational Study in Intensive Care Units.	Healthcare (Basel), 10(9): 1776, 2022	Original Article
137	Seino Y, Sato N, Idei M, Nomura T.	麻醉科学	The Reduction in Medical Errors on Implementing an Intensive Care Information System in a Setting Where a Hospital Electronic Medical Record System is Already in Use: Retrospective Analysis.	JMIR Perioper Med, 5(1): e39782, 2022	Original Article
138	Hoshijima H, Mihara T, Denawa Y, et al.	麻醉科学	Airtraq® versus GlideScope® for tracheal intubation in adults: a systematic review and meta-analysis with trial sequential analysis.	Can J Anaesth. 2022 May; 69(5): 605-613	Original Article
139	Hoshijima H, Mihara T, Kokubu S, et al.	麻醉科学	Effectiveness of Indirect and Direct Laryngoscopes in Pediatric Patients: A Systematic Review and Network Meta-Analysis.	Children (Basel), 9(9): 1280, 2022	Original Article
140	Hoshijima H, Mihara T, Nagumo T, et al.	麻醉科学	Nasal protection strategy reduces the incidence of nasal pressure injuries during nasotracheal intubation: Meta-analysis with trial sequential analysis.	Medicine, 101(40): e30638, 2022	Original Article
141	Idei M, Seino Y, Sato N, et al.	麻醉科学	Catheter-related thrombosis after cardiac surgery in patients with both central venous and pulmonary artery catheters inserted into the right internal jugular vein: a single-center, prospective, observational study.	Heart Vessels, 37(4): 691-696, 2022	Original Article

142	Irisawa T, Nagamine Y, Gamo M, et al.	麻醉科学	The elevation of double lumen tube cuff pressure during lung surgery: a single center prospective observational study.	J Cardiothorac Vasc Anesth, 36(10): 3824–3832, 2022	Original Article
143	Masui K, Hagihira S.	麻醉科学	Equilibration rate constant, ke_0 , to determine effect–site concentration for the Masui remimazolam population pharmacokinetic model in general anesthesia patients.	J Anesth, 36(6): 757–762, 2022	Original Article
144	Masui K, Stöhr T, Pesic M, Tonai T.	麻醉科学	A population pharmacokinetic model of remimazolam for general anesthesia and consideration of remimazolam dose in clinical practice.	J Anesth, 36(4): 493–505, 2022	Original Article
145	Miyazaki T, Takayama Y, Iwasaki M, et al.	麻醉科学	Epileptic discharges initiate from brain areas with elevated 2 accumulation of α -amino-3-hydroxy-5-methyl-4-isoxazole 3 propionic acid receptors.	Brain Commun, 4(2): fcac023, 2022	Original Article
146	Nakajima D, Mihara T, Hijikata T, et al.	麻醉科学	Effectiveness of acupuncture therapy for preventing emergence agitation in children: A protocol for systematic review and meta-analysis with trial sequential analysis.	PloS one, 17: e0264197, 2022	Original Article
147	Niikura R, Miyazaki T, Takase K, et al.	麻醉科学	Assessments of prolonged effects of desflurane and sevoflurane on motor learning deficits in aged AppNL–G–F/NL–G–F mice.	Mol Brain, 15(1): 32, 2022	Original Article
148	Tojo K, Yamamoto N, Tamada N, et al.	麻醉科学	Early alveolar epithelial cell necrosis is a potential driver of COVID–19–induced acute respiratory distress syndrome.	iScience. 26(1):105748, 2023 Jan.	Original Article
149	Tsuboi S, Kubota K, Mihara T, et al.	麻醉科学	Predictive factors of postoperative fentanyl consumption in patients with inflammatory bowel disease: a retrospective cohort study.	BMC anesthesiology, 22: 70, 2022	Original Article
150	Wada K, Sonoda M, Firestone E, et al.	麻醉科学	Sevoflurane–based enhancement of phase–amplitude coupling and localization of the epileptogenic zone.	Clin Neurophysiol, 134: 1–8, 2022	Original Article
151	Yokose M, Takaki R, Mihara T, et al.	麻醉科学	Hypotension after general anesthesia induction using remimazolam in geriatric patients: Protocol for a double–blind randomized controlled trial.	PloS one, 17: e0275451, 2022	Original Article
152	Masui K.	麻醉科学	Caution!! Reappearance of remimazolam effect after a flumazenil bolus: a larger bolus of flumazenil and a lower total remimazolam clearance are higher risks.	Journal of Anesthesia, 37,1:1–5, 2023 Feb.	Original Article

153	Gono T, Masui K(co-first author), Sato S, Kuwana M.	麻醉科学	Mortality risk stratification using cluster analysis in patients with myositis-associated interstitial lung disease receiving initial triple-combination therapy.	Front Med (Lausanne), 9: 883699, 2022	Original Article
154	Akimoto T, Ohtake M, Kawasaki T, et al.	救急医学	Predictors of Outcomes Six Months after Endovascular Coil Embolization of Poor-Grade Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage.	J Neuroendovasc Ther,17(2):47-55, 2023 doi: 10.5797/jnet.oa.2022-0043. Epub 2023 Jan 7	Original Article
155	Furugori S, Abe T, Funabiki T, et al.	救急医学	Arterial Embolisation for Trauma Patients with Pelvic Fractures in Emergency Settings: A Nationwide Matched Cohort Study in Japan.	Eur J Vasc Endovasc Surg, 64(2-3):234-242, 2022	Original Article
156	Hifumi T, Inoue A, Otani T, et al.	救急医学	SAVE-J II study group. Details of Targeted Temperature Management Methods for Patients Who Had Out-of-Hospital Cardiac Arrest Receiving Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation: A Questionnaire Survey.	Ther Hypothermia Temp Manag, 12(4): 215-222, 2022	Original Article
157	Inoue A, Hifumi T, Sakamoto T, et al.	救急医学	SAVE-J II study group. Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in adult patients with out-of-hospital cardiac arrest: a retrospective large cohort multicenter study in Japan.	Crit Care, 26(1): 129, 2022	Original Article
158	Michishita T, Nakajima K, Doi T, Mori K, Takeuchi I.	救急医学	Hemostatic Achievement After Introduction of Venovenous Extracorporeal Membrane Oxygenation for Severe Multiple Trauma: A Case Study.	Cureus, 14(6): e25560, 2022	Case report
159	Minami S, Nagafuchi H, Yamada K, Abe T, Takeuchi I.	救急医学	Association Between Thrombin-Antithrombin Complex and Acute Kidney Injury After Pediatric Cardiopulmonary Bypass Surgery: A Single-Center Retrospective Observational Study.	Clin Appl Thromb Hemost, 29:10760296231184465, 2023 Jan-Dec;29	Original Article
160	Nakajima K, Yamaguchi K, Abe T, et al.	救急医学	Extravasation and outcomes in computed tomography and angiography in patients with pelvic fractures requiring transcatheter arterial embolization: A single-center observational study.	J Trauma Acute Care Surg, 92(5):873-879, 2022	Original Article
161	Ogawa F, Oi Y, Honzawa H, et al.	救急医学	Severity predictors of COVID-19 in SARS-CoV-2 variant, delta and omicron period; single center study.	PLoS One, 17(10):e0273134, 2022	Original Article

162	Ohya A, Ohtake M, Kawamura Y, et al.	救急医学	Diagnosis and treatment approaches for simultaneous onset of subarachnoid hemorrhage and thyroid storm: a case report.	Int J Emerg Med, 16(1):15, 2023 Mar 1	Case report
163	Oi Y, Ogawa F, Yamashiro T, et al.	救急医学	Prediction of prognosis in patients with severe COVID-19 pneumonia using CT score by emergency physicians: a single-center retrospective study.	Sci Rep, 13(1):4045, 2023 Mar 10	Original Article
164	Otani T, Hifumi T, Inoue A, Abe T, Sakamoto T, Kuroda Y.	救急医学	SAVE-J II study group. Transient return of spontaneous circulation related to favourable outcomes in out-of-hospital cardiac arrest patients resuscitated with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: A secondary analysis of the SAVE-J II study.	Resusc Plus, 12:100300, 2022	Original Article
165	Sato R, Matsuzawa Y, Ogawa H, et al.	救急医学	Chronic kidney disease and clinical outcomes in patients with COVID-19 in Japan.	Clin Exp Nephrol, 26(10):974-981, 2022	Original Article
166	Takeuchi I, Morimura N, Iwashita M, et al.	救急医学	Validating the trauma care system developed by Yokohama City local government.	Acute Med Surg, 9(1):e749, 2022	Original Article
167	Taniguchi H, Abe T, Doi T, et al.	救急医学	Temporal changes in peripheral regional oxygen saturation associated with return of spontaneous circulation after out-of-hospital cardiac arrest: A prospective observational cohort study in Japan.	Resuscitation, 174:68-74, 2022	Original Article
168	Toida C, Muguruma T, Gakumazawa M, et al.	救急医学	Ten-year in-hospital mortality trends among Japanese injured patients by age, injury severity, injury mechanism, and injury region: A nationwide observational study.	PLoS One, 17(8):e0272573, 2022	Original Article
169	Toida C, Muguruma T, Gakumazawa M, Shinohara M, Abe T, Takeuchi I.	救急医学	Evaluating the definition of severely injured patients: a Japanese nationwide 5-year retrospective study.	BMJ Open, 13(2):e062619, 2023 Feb 23	Original Article
170	Tojo K, Yamamoto N, Tamada N, et al.	救急医学	Early alveolar epithelial cell necrosis is a potential driver of COVID-19-induced acute respiratory distress syndrome.	iScience, 26(1):105748, 2023 Jan 20	Original Article
171	Wakayama Y, Higashi T, Kobayashi N, et al.	救急医学	Clinical utility of minimally invasive posterior internal fixation within the pelvic ring using S2 alar iliac screws for unstable pelvic ring fracture.	Injury, 53(10): 3371-3376, 2022	Original Article

172	Hori S, Nagai S, Tsumura K, Kuroda S.	脳神経外科学	Mutism due to a massive hematoma after rebleeding of an aneurysmal subarachnoid hemorrhage in the territory of the distal anterior cerebral artery.	Surg Neurol Int, 13: 79, 2022	Original Article
173	Hori S, Kashiwazaki D, Akioka N, et al.	脳神経外科学	Predictive factors of functional outcome in World Federation of Neurosurgical Societies Grade V subarachnoid hemorrhage.	World Neurosurg, 165: e216-e222, 2022	Original Article
174	Nakata S, Murai J, Okada M, et al.	脳神経外科学	Epigenetic upregulation of Schlafen11 renders WNT- and SHH-activated medulloblastomas sensitive to cisplatin.	Neuro Oncol, 23: 243, 2022	Original Article
175	Takase H, Tatezuki J, Salem MM, et al.	脳神経外科学	Antiplatelet therapy for standalone coiling of ruptured intracranial aneurysms: a systematic review and meta-analysis.	J Neurointerv Surg, 14(12): 1207-1212, 2022	Original Article
176	Takase K, Tetsuo Y, Umesaki A, Masuo O.	脳神経外科学	A Case of De Novo Basilar Artery Aneurysm Associated with Proximal Stenosis Treated by Coil Embolization.	JNET, 16(7): 366-370, 2022	Original Article
177	Takayama Y, Ikegaya N, Iijima K, et al.	脳神経外科学	Is Hippocampal Resection Necessary for Low-Grade Epilepsy-Associated Tumors in the Temporal Lobe?	Brain sciences, 12(10): 1381, 2022	Original Article
178	Takayama Y, Kimura Y, Iijima K, et al.	脳神経外科学	Volume-Based Radiofrequency Thermocoagulation for Pediatric Insulo-Opercular Epilepsy: A Feasibility Study.	Oper Neurosurg (Hagerstown), 23: 241-249, 2022	Original Article
179	Kurasawa K, Hamanoue H, Miyagi E, et al.	産婦人科学	Analysis of The Japan Association of Obstetrics and Gynecology (JAOG) registry data.	Congenital Anomalies, 62(1): 26, 2022	Original Article
180	Iwata A, Kurasawa K, Kubota K, et al.	産婦人科学	Factors Predicting Rubella Vaccination and Antibody in Pregnant Women in Japan: A Report from Pregnant Women Health Initiative.	Vaccines (Basel), 10(5): 638, 2022	Original Article
181	Suzuki Y, Sukegawa A, Ueda Y, et al.	産婦人科学	The Effect of a Web-Based Cervical Cancer Survivor's Story on Parents' Behavior and Willingness to Consider Human Papillomavirus Vaccination for Daughters: Randomized Controlled Trial.	JMIR Public Health Surveill, 8(5): e34715, 2022	Original Article
182	Suzuki Y, Huang Y, Melamed A, et al.	産婦人科学	Trends in use of estrogen replacement therapy for premenopausal women with gynecologic cancer after surgical menopause (372).	Gynecologic Oncology 2022, 166: S190-S191, 2022	Original Article

183	Suzuki Y, Huang Y, Melamed A, et al.	産婦人科学	Use of Estrogen Therapy After Surgical Menopause in Women Who Are Premenopausal.	Obstet Gynecol, 139(5): 756–763, 2022	Original Article
184	Iijima T, Obata S, Chuma M, et al.	産婦人科学	Rapid progression of hepatocellular carcinoma in a pregnant woman: A case report.	Clin Case Rep, 10(11): e6558, 2022	Case report
185	Kurasawa K.	産婦人科学	Maternal vaccination—current status, challenges, and opportunities.	J Obstet Gynaecol Res, 49(2): 493–509, 2023 Feb.	Original Article
186	Nagai K, Asano R, Sekiguchi F, et al.	産婦人科学	MED12 mutations in uterine leiomyomas: prediction of volume reduction by gonadotropin-releasing hormone agonists.	Am J Obstet Gynecol, 228(2): 207.e1–207.e9, 2023 Feb.	Original Article
187	Jikuya R, Murakami K, Nishiyama A, et al.	泌尿器科学	Single-cell transcriptomes underscore genetically distinct tumor characteristics and microenvironment for hereditary kidney cancers.	iScience, 25(6):104463, 2022	Original Article
188	Tatenuma T, Ito H, Muraoka K, et al.	泌尿器科学	Roughness of the renal tumor surface could predict the surgical difficulty of robot-assisted partial nephrectomy.	Asian J Endosc Surg, 15(3): 591–598, 2022	Original Article
189	Tatenuma T, Ebara S, Kawase M, et al.	泌尿器科学	Association of hospital volume with perioperative and oncological outcomes of robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy: a retrospective multicenter cohort study.	BMC Urol. 23(1):14, 2023 Jan 31	Original Article
190	Fujisawa T, Choe H, Kusaba Y, et al.	整形外科科学	Medial meniscus extrusion and stage are related to the size of spontaneous osteonecrosis of the knee in patients who underwent high tibial osteotomy.	Knee. 36:72–79, 2022 Jun	Original Article
191	Choe H, Kobayashi N, Oba M, et al.	整形外科科学	Bilateral fragility femoral supracondylar fractures in adolescents due to long-term home stay during the COVID-19 pandemic: A case report.	J Orthop Sci. S0949–2658(22)00134–8, 2022 Jun 8 (オンライン)	Case report
192	Kumagai K, Yamada S, Nejima S, et al.	整形外科科学	Biological Effects of High Tibial Osteotomy on Spontaneous Osteonecrosis of the Knee.	Cartilage. 13(3): 19476035221118171, 2022 Jul–Sep	Original Article
193	Kumagai K, Yamada S, Nejima S, et al.	整形外科科学	Minimum 5-year outcomes of osteochondral autograft transplantation with a concomitant high tibial osteotomy for spontaneous osteonecrosis of the knee with a large lesion.	Cartilage. 13(3): 19476035221126341, 2022 Jul–Sep	Original Article

194	Sotozawa M, Kumagai K, Ishikawa K, et al.	整形外科科学	Bevacizumab suppressed degenerative changes in articular cartilage explants from patients with osteoarthritis of the knee.	J Orthop Surg Res. 18(1): 25, 2023 Jan 10	Original Article
195	Saito K, Kawabata Y, Kobayashi N, et al.	整形外科科学	A rare case of intra-articular synovial sarcoma of the hip joint: a case report with intra-articular findings via hip arthroscopy.	J Surg Case Rep. 2023(2): rjad066, 2023 Feb 27	Case report
196	Choe H, Kobayashi N, Abe K, et al.	整形外科科学	Evaluation of serum albumin and globulin in combination with C-reactive protein improves serum diagnostic accuracy for low-grade periprosthetic joint infection.	J Arthroplasty. 38(3):555-561, 2023 Mar	Original Article
197	Kokubo K, Katori N, Hayashi K, et al.	形成外科学	Effects of fat repositioning for tear trough deformity on eye movement.	J Craniofac Surg, 33(2): 566-569, 2022	Original Article
198	Koike T, Yabuki Y, Miki N, et al.	形成外科学	Visualization of lower extremity lymphedema in the same cohort using 99mTc-human serum albumin and 99mTc-phytate lymphoscintigraphy with SPECT-CT.	Lymphology, 55(1): 1-9, 2022	Original Article
199	Kato S, Horita N, Utsunomiya D.	放射線診断学	Cardiac magnetic resonance-derived tissue tracking strain in patients with hypertrophic cardiomyopathy.	Quant Imaging Med Surg. 13(2):1235-1239, 2023 Feb 1	Original Article
200	Kato S, Horita N, Utsunomiya D.	放射線診断学	Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in obese patients with heart failure.	Cardiol J, 2023023; 30(1):153-154. doi: 10.5603/CJ.a2023.0004. Epub 2023 Feb 15.	Original Article
201	Noritake M, Yamada A, Yamanaka S, et al.	放射線診断学	Intraductal papilloma with carcinoma of the breast described by dedicated breast 18F-FDG PET.	Clin Nucl Med, 47(6): 557-558, 2022	Original Article
202	Kato S, Azuma M, Fukui K, et al.	放射線診断学	Cardiac involvement in coronavirus disease 2019 assessed by cardiac magnetic resonance imaging: a meta-analysis.	Heart Vessels, 37(9): 1570-1582, 2022	Original Article
203	Ishiwata Y, Miura K, Kishimoto M, et al.	放射線診断学	Comparison of CO-RADS scores based on visual and artificial intelligence assessments in a non-endemic area.	Diagnostics (Basel), 12(3): 738, 2022	Original Article
204	Kato S, Horita N, Utsunomiya D.	放射線診断学	Incidence of Myocarditis after Messenger RNA Vaccine for COVID-19 in Young Male Recipients.	Am J Cardiol, 172: 159-161, 2022	Original Article
205	Sawamura S, Koike Y, Yamamoto T, et al.	放射線診断学	The use of viabahn VBX stent-grafts for the treatment of extrahepatic portal vein hemorrhage.	Minim Invasive Ther Allied Technol, 31(7): 1066-1069, 2022	Original Article

206	Kato S, Utsunomiya D, Horita N, et al.	放射線診断学	Prognostic significance of the perivascular fat attenuation index derived by coronary computed tomography: A meta-analysis.	Hellenic J Cardiol, 67: 73-75, 2022	Original Article
207	Kato S, Horita N, Utsunomiya D.	放射線診断学	Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in heart failure with chronic kidney disease.	ESC Heart Fail, 9(5): 3661-3662, 2022	Original Article
208	Kato S, Horita N, Utsunomiya D.	放射線診断学	The positive impact of coronary computed tomography angiography-based strategies on the clinical outcomes of patients with diabetes mellitus.	Eur J Intern Med, 106: 150-151, 2022	Original Article
209	Aoki R, Iwasawa T, Saka T, et al.	放射線診断学	Effects of automatic deep-learning-based lung analysis on quantification of interstitial lung disease: correlation with pulmonary function test results and prognosis.	Diagnostics (Basel), 12(12): 3038, 2022	Original Article
210	Hasegawa S, Kobayashi N, Wild D, et al.	放射線治療学	Factors Contributing to Tumor Shrinkage after Peptide Receptor Radionuclide Therapy in Patients with Unresectable Neuroendocrine Tumors.	Cancers (Basel), 14(14): 3317, 2022	Original Article
211	Ichikawa Y, Kobayashi N, Takano S, Kato I, Endo K, Inoue T.	放射線治療学	Neuroendocrine tumor theranostics.	Cancer Sci, 113(6): 1930-1938, 2022	Review
212	Hishimoto A, Yasui-Furukori N, Sekine D, et al.	精神医学	Treatment Discontinuation Among Patients with Schizophrenia Treated with Brexpiprazole and Other Oral Atypical Antipsychotics in Japan: A Retrospective Observational Study.	Adv Ther. 2022 Sep; 39(9): 4299-4314	Original Article
213	Asami T, Takaishi M, Nakamura R, et al.	精神医学	Structural brain abnormalities in adolescent patients with anorexia nervosa at both the acute and weight-recovered phase.	Brain Imaging Behav. 2022 Jun;16(3): 1372-1380	Original Article
214	de K, Asami T, Suda A, et al.	精神医学	The psychological distress and suicide-related ideation in hospital workers during the COVID-19 pandemic: Second results from repeated cross-sectional surveys.	PLoS One. 2022 Nov 10;17(11): e0277174	Original Article
215	Hattori S, Suda A, Kishida I, et al.	精神医学	Differences in autonomic nervous system activity between long-acting injectable aripiprazole and oral aripiprazole in schizophrenia.	BMC Psychiatry. 2023 Mar 3;23(1): 135	Original Article
216	Suzuki K, Ishihara M, Namba K, et al.	眼科学	Clinical features of ocular sarcoidosis: severe, refractory, and prolonged inflammation.	JJO, 66(5): 447-454, 2022	Original Article

217	Iizuka Y, Takase-Minegishi K, Hirahara L, et al.	眼科学	Beneficial effects of apremilast on genital ulcers, skin lesions, and arthritis in patients with Behçet's disease: A systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol, 32(6): 1153-1162, 2022	Original Article
218	Kato A, Horita N, Namkoong H, et al.	眼科学	Prophylactic antibiotics for postcataract surgery endophthalmitis: a systematic review and network meta-analysis of 6.8 million eyes.	Sci Rep, 12(1): 17416, 2022	Original Article
219	Su G, Zhong Z, Zhou Q, et al.	眼科学	Identification of Novel Risk Loci for Behçet's Disease-Related Uveitis in a Chinese Population in a Genome-Wide Association Study.	Arthritis Rheumatol, 74(4): 671-681, 2022	Original Article
220	Ura T, Takeuchi M, Kawagoe T, et al.	眼科学	Current Vaccine Platforms in Enhancing T-Cell Response.	Vaccines (Basel), 10(8): 1367, 2022	Original Article
221	Yoneda Y, Usui Y, Tanaka R, et al.	眼科学	Factors associated with low prevalence of Fuchs' uveitis syndrome in Japan.	Front Med (Lausanne), 9: 999804, 2022	Original Article
222	Shimada M, Wang H, Ichino M, et al.	眼科学	Biodistribution and immunity of adenovirus 5/35 and modified vaccinia Ankara vector vaccines against human immunodeficiency virus 1 clade C.	Gene Ther, 29(10-11): 636-642, 2022	Original Article
223	Teshigawara T, Meguro A, Mizuki N.	眼科学	The effect of rebamipide on refractive accuracy of cataract surgery in patients with dry eye.	Ophthalmol Ther, 11(2): 603-611, 2022	Original Article
224	Shimizu T, Hayashi T, Ishida A, et al.	眼科学	Evaluation of corneal nerves and dendritic cells by in vivo confocal microscopy after Descemet's membrane keratoplasty for bullous keratopathy.	Sci Rep, 12(1): 6936, 2022	Original Article
225	Nakamura J, Kamao T, Mitani A, et al.	眼科学	Analysis of lacrimal duct morphology from cone-beam computed tomography dacryocystography in a Japanese population.	Clin Ophthalmol, 16: 2057-2067, 2022	Original Article
226	Nakamura J, Kamao T, Mitani A, et al.	眼科学	Comparison of the efficacies of 1.0 and 1.5 mm silicone tubes for the treatment of nasolacrimal duct obstruction.	Sci Rep, 12(1): 11785, 2022	Original Article
227	Teshigawara T, Meguro A, Mizuki N.	眼科学	Impact of perioperative dry eye treatment with rebamipide versus artificial tears on visual outcomes after cataract surgery in Japanese population.	Ophthalmol Ther, 11(4): 1479-1491, 2022	Original Article
228	Nakamura J, Takeuchi M, Ota M, Mizuki N, Ohno S.	眼科学	Does the Interaction of KIR and HLA Affect the Development of Non-Infectious Uveitis?	Curr Mol Med, 22(8): 703-716, 2022	Original Article

229	Mahmoudi M, Aslani S, Meguro A, et al.	眼科学	A comprehensive overview on the genetics of Behçet's disease.	Int Rev Immunol, 41(2): 84-106, 2022	Original Article
230	Akaishi M, Teshigawara T, Hata S, Meguro A, Mizuki N.	眼科学	Multiple linear regression model for improving accuracy of capsulorhexis size calculation in femtosecond laser-assisted cataract surgery for adults: a retrospective single-center study.	BMC Ophthalmol. 2023 Jan 11;23(1): 19	Original Article
231	Takeuchi M, Usui Y, Namba K, et al.	眼科学	Ten-year follow-up of infliximab treatment for uveitis in Behçet disease patients: A multicenter retrospective study.	Front Med (Lausanne). 2023 Jan 20;10:1095423	Original Article
232	Teshigawara T, Meguro A, Takeuchi M, et al.	眼科学	Replication Study of the Association of GAS6 and PROS1 Polymorphisms with Behçet's Disease in a Japanese Population.	Ocul Immunol Inflamm. 2023 Feb 22:1-7	Original Article
233	Kato N, Shimizu T, Shimizu E, Mizuki N, Negishi K.	眼科学	Rapid detection of fungi and Acanthamoeba from corneal ulcers using a novel mobile laboratory microscope and a smartphone.	Eye (Lond) 37(4):785-786, 2023 Mar.	Original Article
234	Ida Y, Shimizu T, Kuroki T, et al.	眼科学	Risk factors for intraocular pressure elevation following Descemet membrane endothelial keratoplasty in Asian patients.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2023 Mar;261(3):749-760	Original Article
235	Nishimura G, Sano D, Arai Y, et al.	耳鼻いんこう科	A risk factor for newly diagnosed secondary cancer in patients with early-stage laryngeal, oropharyngeal, or hypopharyngeal cancer: sub-analysis of a prospective observation study.	Int J Clin Oncol, 27: 488-494, 2022	Original Article
236	Sano D, Tokuhisa M, Takahashi H, et al.	耳鼻いんこう科	Real-world therapeutic outcomes of the pembrolizumab regimen as first-line therapy for recurrent/metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck: a single-center retrospective cohort study in Japan.	Anticancer Res, 42: 4477-4484, 2022	Original Article
237	Mikami-Sugawara M, Kaneko H, Sasai H, et al.	皮膚科学	Clinical features and antimicrobial treatment of skin infections caused by Panton-Valentine leucocidin-positive methicillin-resistant Staphylococcus aureus.	J Dermatol, 49(12): 1338-1342, 2022	Original Article
238	Mikami-Sugawara M, Tanigawa K, Kawashima A, et al.	皮膚科学	Pathogenicity and virulence of Mycobacterium leprae.	Virulence, 13(1): 1985-2011, 2022	Original Article
239	Yotsu RR, Miyamoto Y, Mori S, et al.	皮膚科学	Hansen's disease(leprosy) in Japan, 1947-2020:an epidemiologic study during the declining phase to elimination.	Int J Infect Dis, 125: 265-274, 2022	Original Article

240	Asami M, Ototake Y, Takamura N, et al.	皮膚科学	Abnormal inflammatory traits and downregulated caveolin-1 expression in monocytes of psoriasis patients may be associated with psoriatic inflammation and atherosclerosis.	J Dermatol Sci, 107(2): 65-74, 2022	Original Article
241	Sakai A, Inomata N, Yamakawa K, Yamaguchi Y.	皮膚科学	Cold-induced anaphylactic shock during playing in a thigh-deep river: A pediatric case.	J Cutan Immunol Allergy, doi: 10.1002/cia2.12285 2022	Original Article
242	Yamaguchi Y.	皮膚科学	Exploring the deeper linkage between adverse drug reactions and autoimmune diseases.	Allergol Int, 71(2): 161-162, 2022	Original Article
243	Watanabe T, Yamaguchi Y.	皮膚科学	Cutaneous manifestation associated with Immune Checkpoint Inhibitors.	Front Immunol. 2023 Feb 20;14:1071983	Original Article
244	Iwai T, Iida M, Sugiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	Intraoral styloidectomy using an endoscope with tissue retractor.	J Craniofac Surg, 33(4): 1201-1202, 2022	Original Article
245	Iwai T, Iida M, Sugiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	Intraoral styloidectomy using an endoscope with tissue retractor.	J Craniofac Surg, 33(4): 1201-1202, 2022	Original Article
246	Iwai T, Minamiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	A solitary asymptomatic submandibular mass.	Eur Ann Otorhinolaryngol Head Neck Dis, 139(5): 309-310, 2022	Original Article
247	Iwai T, Minamiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	A solitary, asymptomatic cystic lesion in the submandibular region.	Eur Ann Otorhinolaryngol Head Neck Dis, 139(5): 305-307, 2022	Original Article
248	Iwai T, Minamiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	Huge submandibular gland mucocele with diagnostic difficulties.	J Craniofac Surg, 33(8): e784-e785, 2022	Original Article
249	Iwai T, Minamiyama S, Sugiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	Lymphatic malformation in the buccal region.	Eur Ann Otorhinolaryngol Head Neck Dis, 139(5): 313-314, 2022	Original Article
250	Iwai T, Sugiyama S, Minamiyama S, et al.	口腔外科学	Clinical anatomy of feeding artery of the submandibular gland.	J Craniofac Surg, 33(7): 2256-2257, 2022	Original Article
251	Iwai T, Sugiyama S, Oguri S, Mitsudo K.	口腔外科学	Anatomical relationship between the lingual nerve and submandibular duct.	J Craniofac Surg, 33(3): 949-950, 2022	Original Article
252	Iwai T, Minamiyama S, Mitsudo K.	口腔外科学	Multiple schwannomas arising in the midline space between the bilateral genioglossus muscles and left submandibular space.	J Craniofac Surg. 2023 Jan-Feb;34(1): e61-e63	Original Article

253	Kitabatake T, Takayama K, Tominaga T, et al.	口腔外科学	Treatment outcomes of proton beam therapy combined with retrograde intra-arterial infusion chemotherapy for locally advanced oral cancer in the elderly.	Int J Oral Maxillofac Surg, 51(10):1264-1272, 2022	Original Article
254	Kitajima H, Hirota M, Komatsu K, et al.	口腔外科学	Ultraviolet light treatment of titanium microfibers scaffolds enhances osteoblast recruitment and osteoconductivity in a 3D UV photofunctionalization.	Cells, 12(1):19, 2022	Original Article
255	Kosugi Y, Hirota M, Tamai N, et al.	口腔外科学	A 3-dimensional finite element analysis of resected mandibular bone to determine the most stable implant positions for a fixed prosthesis.	J Oral Implantol, 48(2): 84-91, 2022	Original Article
256	Sugiyama S, Iwai T, Baba J, et al.	口腔外科学	Sentinel lymph node biopsy with a handheld cordless magnetic probe following preoperative MR lymphography using superparamagnetic iron oxide for clinically N0 early oral cancer: A feasibility study.	J Stomatol Oral Maxillofac Surg, 123(5): 521-526, 2022	Original Article
257	Sugiyama S, Iwai T, Honda K, Mitsudo K.	口腔外科学	A simple method with a sterilized surgical glove for removal of stripped screw.	J Stomatol Oral Maxillofac Surg, 123(3): e43-e44, 2022	Original Article
258	Yoshii H, Sekihara K, Ideta Y, et al.	口腔外科学	The Expression of SIRT6 Is Associated with Treatment Outcome in Elder Patients with Oral Cancer.	Anticancer Res, 42(8): 3815-3823, 2022	Original Article
259	Okamura M, Konishi M, Saigusa Y, et al.	リハビリテーション 科学	Impact of grip strength and gait speed on exercise tolerance in patients with pulmonary hypertension without left heart disease.	Heart Vessels, 37(11): 1928-1936, 2022	Original Article
260	Asano K, Nakamura T, Funakoshi K.	リハビリテーション 科学	Early mobilization in spinal cord injury promotes changes in microglial dynamics and recovery of motor function.	IBRO Neurosci Rep, 12: 366-376, 2022	Original Article
261	Fujii H, Nagakura H, Kobayashi N, et al.	化学療法セン ター	Liquid biopsy for detecting epidermal growth factor receptor mutation among patients with non-small cell lung cancer treated with afatinib: a multicenter prospective study.	BMC Cancer, 22(1): 1035, 2022	Original Article
262	Hara Y, Oshima Y, Tagami Y, et al.	化学療法セン ター	Clinical importance of serum heme oxygenase-1 measurement in patients with acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis triggered by coronavirus disease 2019.	Respir Med Case Rep, 36: 101615, 2022	Original Article
263	Horita N.	化学療法セン ター	Impact of the COVID-19 pandemic on cancer diagnosis and resection in a COVID-19 low-burden country: Nationwide registration study in Japan.	Eur J Cancer, 165: 113-5, 2022	Original Article

264	Horita N, Kato H, Watanabe K, et al.	化学療法センター	Decline in mortality due to respiratory diseases in Japan during the coronavirus disease 2019 pandemic.	Respirology, 27(2): 175-6, 2022	Original Article
265	Horita N, Kato H, Watanabe K, et al.	化学療法センター	Declined Mortality Due to Seasonal Influenza in Japan During the Coronavirus Disease 2019 Pandemic.	Clin Infect Dis, 74(11): 2081, 2022	Original Article
266	Horita N, Moriguchi S.	化学療法センター	Trends in Suicide in Japan Following the 2019 Coronavirus Pandemic.	JAMA Netw Open, 5(3): e224739, 2022	Original Article
267	Nagano A, Takeuchi M, Horita N, et al.	化学療法センター	Behçet's disease and activities of daily living.	Rheumatology (Oxford), 61(3): 1133-40, 2022	Original Article
268	Somekawa K, Horita N, Kaneko A, et al.	化学療法センター	Adverse events induced by nivolumab and ipilimumab combination regimens.	Ther Adv Med Oncol, 14: 17588359211058393, 2022	Original Article
269	Watanabe K, Horita N, Hara Y, Kobayashi N, Kaneko T.	化学療法センター	Use of Systemic Corticosteroids for Reasons Other than Asthma in Subjects with Asthma.	Respiration, 101(2): 109-15, 2022	Original Article

計269件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 委員会の設置、研究機関長、研究者及び研究責任者の業務及び責務、研究責任者による研究実施の準備及び研究の管理に関する業務 など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 公立大学法人横浜市立大学臨床研究利益相反委員会実施要綱により委員会の設置、所掌事務、組織、自己申告書の審査及び本学が設定する基準額を超える利益関係についてのマネジメントについて定めている	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 12 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の倫理に関する講習として、下記の日程で臨床研究セミナーならびに倫理委員向けのセ	

ミナーを行った。

- 4月21日（木）臨床研究概論～「臨床研究の疑問→研究実施→論文化→EBM」で医療を改善する道筋～（講師）Y-NEXT 須江聡一郎
- 5月26日（木）倫理委員会承認から研究終了までの「研究実施」における～ピットフォール～（講師）Y-NEXT 須江聡一郎
- 6月29日（水）各種規制の動向（研究法や統合指針）について（講師）国立がん研究センター 中村健一先生
- 7月7日（木）知っておきたい国際標準の研究倫理：eAPRINプロジェクトの取組（講師）信州大学 福嶋義光先生
- 11月16日（水）当科のしくじりから学ぶ、臨床研究の適正実施（講師）小児科 西村謙一
- 12月20日（火）倫理委員会をもう一度基礎から知る（講師）倫理担当
- 1月27日（木）臨床研究法によって我々が得たもの、失ったもの ～田舎の一研究者のつぶやき～（講師）新潟県立がんセンター 三浦先生
- 2月16日（木）なぜ利益相反を管理しなければならないのか（講師）都市社会文化研究科 有馬 斉 先生
- 11月21日（月）研究倫理の遵守に基づく臨床研究の適正な推進について*（講師）北里大学 熊谷雄治 先生
- 12月22日（木）委員向けの簡易な内容で統計内容*（講師）久留米大学バイオ統計センター 室谷 健太教授
- 2月21日（火）臨床研究と利益相反 もしくは 研究倫理*（講師）国立がん研究センター 研究支援センター生命倫理部COI管理室／社会と健康研究センター生命倫理・医事法研究部 研究員 中田はる佳
- 3月14日（火）新統合指針と個人情報法関係について*（講師）獨協大学 上杉奈々

*：倫理審査委員向けセミナー

他：臨床研究セミナー

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学は20を越す多彩なプログラムを有しており、大学病院の専門診療科及び専門別センターで高度で質の高い医療に従事することができる。また、協力病院をはじめとした地域医療機関での研修によって、臨床研修に引き続きプライマリ・ケアを含めた幅広い研修も行うことができる。研修期間は原則3年間であり、専門医取得に向けた大きな一歩となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	74	人
-------------	----	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
中島 秀明	血液・リウマチ・感染症内科	教授	37年	
金子 猛	呼吸器内科	教授	38年	
日比 潔	循環器内科	教授	32年	
田村 功一	腎臓・高血圧内科	教授	36年	
田中 章景	脳神経内科・脳卒中科	教授	37年	
寺内 康夫	内分泌・糖尿病内科	教授	35年	
前田 慎	消化器内科	教授	31年	
中島 淳	消化器内科(肝胆膵)	教授	35年	
市川 靖史	臨床腫瘍科	教授	38年	
浅見 剛	精神科	准教授	23年	
伊藤 秀一	小児科	教授	31年	
齋藤 綾	心臓血管外科・小児循環器	教授	30年	
利野 靖	消化器・一般外科	准教授	38年	
菅沼 伸康	乳腺・甲状腺外科	講師	26年	
石川 善啓	呼吸器外科	講師	23年	
遠藤 格	消化器外科	教授	39年	
稲葉 裕	整形外科	教授	35年	
山口 由衣	皮膚科	教授	24年	
槇山 和秀	泌尿器科	教授	30年	
宮城 悦子	産婦人科	教授	36年	
水木 信久	眼科	教授	35年	
折館 伸彦	耳鼻いんこう科	教授	36年	
幡多 政治	放射線科	教授	31年	
光藤 健司	歯科・口腔外科・矯正歯科	教授	35年	

後藤 隆久	麻酔科	教授	37年	
山本 哲哉	脳神経外科	教授	35年	
中村 健	リハビリテーション科	教授	31年	
林 礼人	形成外科	教授	29年	
竹内 一郎	救急科	教授	27年	
藤井 誠志	病理診断科	教授	30年	
桐越 博之	臨床検査部	講師	29年	
宇都宮 大輔	放射線部	教授	28年	
太田 光泰	総合診療科	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 西井 鉄平	
管理担当者氏名	医事課長 深澤 博 / 総務課長 岸田 純也	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各科
		処方せん	総務課・薬剤部
		手術記録	総務課
		看護記録	総務課
		検査所見記録	総務課
		エックス線写真	総務課
		紹介状	総務課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	職員課
		高度の医療の提供の実績	医事課（病歴室）
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	各診療科
		閲覧実績	各関係部署
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課（病歴室）
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	総務課・薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	職員課
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	職員課
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課
	第十一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	職員課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	職員課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	職員課
		医療安全管理部門の設置状況	職員課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療の質・安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療の質・安全管理部
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	八景キャンパス総務課
		職員研修の実施状況	職員課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	職員課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	八景キャンパス総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	八景キャンパス財務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	医療情報部長 西井 鉄平
閲覧担当者氏名	医事課長 深澤 博 / 総務課長 岸田純也
閲覧の求めに応じる場所	会議室 病歴室(閲覧室)
閲覧の手続の概要 医療スタッフの閲覧は「横浜市立大学附属病院 診療録等管理実施要綱」「診療録等の閲覧・貸出要綱」に基づき手続きを行う。 患者側からの個人情報開示の請求があった場合、「横浜市立大学附属病院における診療情報の提供に関する実施要綱」「横浜市立大学附属病院における診療情報の提供に関する事務処理要領」に基づき手続きを行う。 公的監査における診療録の閲覧については、指定を受けた記録について該当記録・書類を病院職員立ち合いのもと開示する。 カルテレビュー形式で閲覧する場合は、会議室に電子カルテ閲覧の環境を設置する。病院職員が操作し指定の記録あるいは診療内容について開示する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	3	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理の基本方針 2. 医療安全管理のための組織体制 3. 報告及び再発防止、医療事故発生時の対応 4. 高難度新規医療技術を用いた医療提供及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 5. 説明同意による患者・家族と医療従事者間の情報共有 6. 患者からの相談等への対応 7. 医療安全のための職員教育・研修 8. 外部監査、内部通報制度 9. その他医療安全の推進 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 23 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理対策委員会 (年12回)：院内医療安全の方針を協議決定 リスクマネージャー会議 (年11回)：安全管理対策委員会の方針周知、医療安全の推進、安全課題検討、情報交換 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 106 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)：別紙①参照 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデントシステムを用いた院内のインシデント報告の収集を実施。収集したインシデントの課題・問題点を医療の質・安全管理部内(多職種ミーティング)で分析し、QIミーティング等で報告する体制を構築 2. 医療安全に関する規定(指針・ガイドライン・マニュアル)の改正・周知 3. 他施設の医療安全に関するニュースや機構から発出された情報等をリスクマネージャー会議で紹介すると共に、月間医療安全ニュースで院内の職員全員に周知 4. 患者確認の2段階プロセス(患者本人の同定、患者本人と対象物の患者情報の照合)などの、院内全体に繰り返し周知すべき行動について、電子カルテのスクリーンセイバーを利用した周知を実施 5. インシデントの件数、事故報告等は医療機能評価機構へ報告し、広く情報共有する 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 委員会等の組織に関する基本事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染防止等についての検討（COVID-19対策含む） 2. 感染症発生状況の把握 3. 感染症発生時及び防止のための迅速な対応を行うための審議・検討 4. 感染対策マニュアル等の検討 5. 環境ラウンド・感染対策推進部会の活動把握 6. 分離菌、GLABSI, CAUTI, VAE, SSIサーベイランスの把握 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 52 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. Eラーニング：『感染対策の基本と院内ルールについて』（全職員） 2. Zoom：『抗菌薬適正使用支援のためのセミナー 抗菌薬勉強会』（全職員） 3. 講演会：『医療関連感染症を制御する医療環境のマネジメント/医療機関・施設・社会におけるCOVID-19対策/新型コロナウイルス感染後の20歳未満の死亡例に関する積極的疫学調査のまとめ/当院の抗菌薬使用量について』（全職員） 4. 標準予防策、ミキシング、処置別研修（新人看護師・研修医） 5. 静脈注射研修・CVC研修（看護師） 6. 療養環境整備について、抗菌薬等（感染リンクナース会） 7. 動画講義：COVID-19感染対策（全職員） 8. 清掃業者・リネン業者に対する感染対策・工事業者に対する感染対策（委託業者） 9. 部署の感染対策（ACU・放射線部・MEセンター） 10. COVID-19感染対策について（全職種） 11. PPE着脱演習（救急外来担当者・救急科医師） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） 病棟別検出菌発生頻度、材料別菌発生頻度、主要分離菌の検出と推移などの感染レポートを作成している。院内感染対策が必要な耐性菌やウイルス疾患の検査結果が判明した際には、臨床検査部から感染制御部と担当医師に報告され、また、部門システム上からも感染症発生状況を随時把握できる体制がある。また、部署部門での感染症把握時は、管理者から感染制御部に報告がある。感染制御部部員は、必要時に訪問し状況把握に努め、助言や指導を行い院内感染大防止に努めている。また、COVID-19に関連した本部会議が定期的開催され情報共有や対策を協議している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署・部門にて、年間計画に沿った感染対策の取り組み ・ 手指衛生サーベイランス（病棟・外来・中央部門）の実施 ・ 感染対策推進部会にて、針刺し切創の減少に向けた取り組み ・ CLABSI、CAUTI、VAE、SSIの減少にむけた報告や、療養環境整備の取り組み ・ 感染制御部及び感染対策推進部員の院内ラウンドによる感染対策チェック 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全管理（対象：新採用職員及び転入職員） ・ 「麻薬の取り扱い」に関する研修（対象：研修医） ・ 「静脈注射」に関する研修（対象：看護師） ・ 医薬品安全管理研修 「薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析報告からみる当院の取り組み」（対象：全職員） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 手順書に基づく業務の実施状況を確認するため、リスクマネージャーを通して各病棟及び部門への定期確認を行っている（R4年度：6・9・12・1月） 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） DI室での禁忌・適応外使用等の情報収集 R4年度 60件（禁忌：33件、適応外：27件） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 【未承認薬の使用】 ・ 3,4-ジアミノピリジンのランバート・イートン症候群に対する使用 【適応外使用】 ・ 皮膚隆起性線維肉腫（DFSP）におけるイマチニブの使用 ・ カテコールアミン製剤（注射剤）の併用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <u>院内の体制</u> R2年度までは禁忌・適応外使用について臨床倫理委員会で審議していたが、R3年度から未承認医薬品と共に、未承認新規医薬品等評価部での審査対象とした。 <u>レベル別審査・モニタリングの実施</u> R4年度から未承認等の医薬品については、使用根拠や使用経験、安全性に基づくレベル別審査を行うとともに、看護師、薬剤師を増員して承認後のモニタリング体制を構築した。 <u>薬剤師の関与</u> 未承認新規医薬品等評価部に薬剤師（副評価部長、専門委員、事務局）が参画している。また、薬剤師が収集した情報はDI室で集約し、医薬品安全管理責任者と共有の上、未承認新規医薬品等評価部に報告している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 21 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 主要7品目（麻酔器を加えた8品目）を中心とした研修を実施 放射線業務従事者向けの放射線安全取扱い講習会 医療機器の使用方法に関する事項 医療機器の使用に関して特に法令上順守すべき事項 新規導入装置についての研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 主要7品目（麻酔器を加えた8品目）を中心とした点検（メーカー一点検含む）を実施 医療機器年間保守点検実施計画に則りメーカー一点検簿に基づく定期点検の実施 中央管理機器点検計画に則り汎用医療機器の定期点検を実施 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無し ・ その他の改善のための方策の主な内容： 臨床工学技士による医療機器ラウンドの実施 具体的なインシデント事例を基にした医療機器研修の実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況： 別紙②横浜市立大学附属病院における医療安全管理に関する基本指針 組織図の通り 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 DI 室に担当者を 3 名配置し、情報収集・発信を行っている。 【収集・発信情報の例】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品等安全性情報、添付文書改訂情報、Up to date (適応症の追加などの月刊情報) <ul style="list-style-type: none"> — 年 39 回、全診療科宛てに通知、病院情報システムのお知らせに掲示 ・ 医薬品適正使用情報 <ul style="list-style-type: none"> — 随時発行 ・ 採用医薬品集 <ul style="list-style-type: none"> — 4 月発行、10 月更新版発行、附属病院マニュアル等一覧に掲示 ・ 薬事委員会速報 <ul style="list-style-type: none"> — 年 12 回、奇数月に速報、偶数月に追補版、病院情報システムのお知らせに掲示 ・ 禁忌・適応外医薬品情報収集報告 (DI 室での情報収集件数) <ul style="list-style-type: none"> — 60 件 (禁忌：33 件、適応外：27 件) 件 ・ 医薬品安全性情報報告書 (PMDA に報告) <ul style="list-style-type: none"> — 21 件 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬等の医薬品は、未承認新規医薬品等評価部、未承認新規医薬品等評価委員会により審査、承認する体制としている。未承認等の医薬品の使用に関しては、使用の開始報告を受けて未承認新規医薬品等評価部の事務局で使用状況等をモニタリングする体制としている。 ・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種：【未承認新規医薬品等評価部】 (所属：診療科 ， 職種 医師) (所属：手術部 ， 職種 医師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：看護部 ， 職種 看護師) (所属：MEセンター， 職種 臨床工学技士) (所属：総務課 ， 職種 事務職) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 	

: ガイドラインに則した監査の実施及び監査結果の報告

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>【確認を行うメンバー】</p> <p>診療録管理委員会メンバー（17名） 診療録管理小委員会メンバー（39名） 看護情報委員会メンバー（25名） 診療情報管理士（2名）</p> <p>【実施時期】</p> <p>4か月1クールとし、8月～2月の間に2クール実施（計15診療科） ※新型コロナウイルス感染症の影響により、3クールを予定していたところ2クールの実施となった</p> <p>【確認方法】※①～⑤の順で実施</p> <p>① 診療科医師（診療録管理小委員）、病棟看護師（看護情報委員）、コメディカルによる自己監査 ② 管理士による事務局監査 ③ 診療録管理委員会メンバーによる第三者監査 ④ その結果を①実施者へフィードバック ⑤ ①実施者は一か月間の改善取り組みを実施し、事務局へ報告</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（12）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（1）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>事務：専従（1）名、（1）名、（2）名 臨床工学技士：専従（0）名、（0）名、（1）名 放射線技師：専従（0）名、（0）名、（1）名</p>	

臨床検査技師：専従（０）名、（０）名、（１）名

CRC：専従（０）名、（０）名、（１）名

・活動の主な内容：

医療に係る安全管理対策の推進、医療に係る安全管理についての情報収集、分析、評価等に関する業務を行う。

- ・安全管理対策委員会、リスクマネージャー会議等の運営
- ・インシデント、アクシデント発生時の報告管理、再発防止策の検討
- ・医療安全のための職員教育、研修実施
- ・説明同意による患者・家族と医療従事者間の情報共有
- ・患者からの相談等への対応
- ・外部監査受審
- ・医療の質・安全に資するモニタリング実施

中心静脈穿刺同意書取得率、中心静脈穿刺早期合併症発症率、中心静脈穿刺 X 線確認実施率、中心静脈穿刺超音波使用率、死亡症例数、手術関連死亡症例数、手術患者の血栓予防率、術後肺血栓症発生率、アレルギー情報入力率、入院患者転倒転落発生率、入院患者転倒転落レベル別発生件数、重要フラグ付き画像診断報告書患者対応実施率、病理結果未確認率、術前 VTE スクリーニングテンプレート入力率、VTE リスク分類・対策指示テンプレート入力率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（９件）、及び許可件数（８件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）

・活動の主な内容：

1. 申請案件の審査
2. 申請、審査手続きに関する整備
3. 承認された高難度新規医療技術の実施状況の確認（モニタリング）

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（50 件）、及び許可件数（42 件） ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1. 申請案件の審査 2. 申請、審査手続きに関する整備 3. 承認された高難度新規医療技術の実施状況の確認（モニタリング） ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 258 件（外来死亡、死産除く） ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 596 件（オカレンス：581 件、3 b 事例 15 件） ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 全死亡患者の診療記録を原則 24 時間以内に医療の質・安全管理部で確認し、病院長に報告を行う。医療事故に該当する可能性のある死亡及び 3 b 事例に関しては院内医療事故会議を開催し、事例の検討を行い、安全管理対策委員会で報告する。
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り（ <input checked="" type="checkbox"/> （病院名：広島大学病院） ・ 無） ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ <input checked="" type="checkbox"/> （病院名： 滋賀医科大学医学部附属病院） ・ 無） ・ 技術的助言の実施状況：特になし（直ちに改善が必要な点として特に指摘すべき事項はありません）
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の確保状況 患者相談窓口を患者サポートセンター内に設けており、専従看護師を常時配置して相談を受け付けている。担当者は患者からの申し出を聴取し、簡易なものについてはその場で説明・回答し、重大なも

のは医事課医事調整担当者へ引きつぎ対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成 28 年度に「教職員研修委員会」を設置し、研修年間計画を策定するほか、病院として研修受講歴の一元的な管理に取り組んでいる。

中でも、医療安全講演会(研修会)は年 4 回開催しており、医療安全の基本的な考え方やインシデント事例をふまえた具体的対策・改善等に関して研修を実施している。各講演会では参加者アンケートを実施しており、学習効果の測定も合わせて行っている。

また、多職種による連携と協働を推進するための取組みとしては、平成 26 年度から TeamSTEPS 研修を開催しており、毎年新採用職員を中心に、当院で働くすべての教職員が受講できるようにしている。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構主催研修を受講

後藤 隆久 (管理者/病院長) 継続 5 時間 2023 年 2 月 24 日受講

前田 慎 (医療安全管理責任者) 継続 5 時間 2023 年 1 月 26 日受講

佐橋 幸子 (医薬品安全管理責任者) 継続 5 時間 2023 年 2 月 3 日受講

水野 祐介 (医療機器安全管理責任者) 継続 5 時間 2023 年 2 月 24 日受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022 年 1 月に病院機能評価 3rdG: ver. 2 認定

(令和 5 年 3 月に確認審査受審、条件付解除)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

当院ホームページで公表しています。

・評価を踏まえ講じた措置

- 1, 説明と同意の文書について、電子カルテ「科セット」文書の見直し（一定期間見直されていない文書の修正および使用実績のないものの削除）や電子カルテに掲載されていなかった文書の掲載を行った。また、IC テンプレート使用や、同席できない場合のその後の反応・理解度を確認する記録などを監査し、該当診療科・病棟へ監査結果を伝え、改善指導を行った。
 - 2, クリニカルパスについて、クリニカルパス委員会で決定したフローに沿って、解析シートを作成しデータ分析を実施した。また、医療の質向上委員会が中心となり、褥瘡発生率について、起因する弾性ストッキングに関する調査や看護職員教育を行い、緩やかに改善傾向となった。現在経過検証中である。
 - 3, 高難度新規医療技術および未承認新規医薬品等の適応外使用について、評価のフロー体制を見直し、モニタリング体制を強化した。
 - 4, ルート・ドレーンの誤認防止対策について、カラーシリンジを継続運用し、誤接続防止コネクタを導入した。あわせて医療安全マニュアルを改訂した。
 - 5, BLS 訓練について、「心肺蘇生講習に関する実施方針」および「別紙_心肺蘇生講習受講管理の手引き」を策定し、継続的に BLS 訓練を実施し受講管理を行った。
 - 6, 周術期の抗菌薬の使用について、感染対策マニュアルの術式別の予防的抗菌薬について改訂した。また、術後の長期投与のモニタリングを開始した。現在経過検証中である。
- さらに、病院機能評価 3rdG 認定の本学附属 2 病院間で、定期的に全項目の自己評価調査票ピアレビューを実施し、改善活動状況の確認と改善活動の継続に取り組みます。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

公立大学法人横浜市立大学附属病院長候補者選考基準に関する規程により規定している。

(選考基準)

第2条 候補者となることのできる者は、次に掲げる要件を満たす者とする。

- (1) 医師免許を有している者
- (2) 医療安全の確保のために必要な資質及び能力を有している者
- (3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者
- (4) 横浜市立大学附属病院（以下「当院」という。）の使命を遂行するために必要な資質及び能力を有している者

(医療安全)

第3条 前条第2号に定める医療安全の確保のために必要な資質及び能力とは、医療安全管理業務の経験及び患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等をいう。

2 前項に定める医療安全管理業務とは、次のいずれかの業務をいう。

- (1) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務
- (2) 医療安全管理委員会の構成員としての業務
- (3) 医療安全管理部門における業務
- (4) その他上記に準ずる業務

(管理運営)

第4条 第2条第3号に定める組織管理能力等の当該病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力とは、当院又は当院以外での組織管理経験等、高度な医療を司る特定機能病院を管理運営するうえで必要な資質、能力及び経営改善能力等の資質、能力をいう。

(使命遂行)

第5条 第2条第4号に定める当院の使命を遂行するために必要な資質及び能力とは、当院の理念及び基本方針に掲げる事項を継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力等をいう。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

- ・ 公表の方法
大学ホームページにて公開

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院運営の重要事項に関する事、病院の中期計画、年度計画に関する事、病院の予算・決算に関する事、その他病院長が必要と認めた事項。 ・審議の概要の従業者への周知状況 学内（院内）グループウェアへ会議資料（議事録含む）を掲載、各診療科・部門の長へメールで同資料を送付。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
後藤 隆久	○	医師	病院長
田村 功一		医師	副病院長/腎臓・高血 圧内科部長
山本 哲哉		医師	副病院長/脳神経外科 部長
前田 慎		医師	副病院長/消化器内科 部長
鈴木 久美子		看護師	副病院長/看護部長
佐橋 幸子		薬剤師	薬剤部長
林 健一		事務	医学・病院統括部長
宮城 悦子		医師	産婦人科部長/Y-NEXT センター長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

- ① 公立大学法人横浜市立大学教員管理職規程
- ② 横浜市立大学附属病院規程

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- ① 副院長 役割：病院長を補佐する役割
- ② 病院長補佐 役割：特定の業務に関して病院長を補佐する役割
※現在の病院長補佐は3名任命している。
 - 1名は、医療安全に関する業務を補佐する役割、
 - 1名は、検査体制（臨床検査・病理・輸血）を統括する役割、
 - 1名は、医療情報を統括する役割を担い、病院長を補佐している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

平成30年度から本学で「病院経営の変革に取り組む人材を育成するプログラム」を開始し、令和2年度も当院から将来の病院幹部候補者として6名が参加している。令和3年度は8名が履修した。また、一般社団法人日本病院経営支援機構が主催する病院経営者（事務長）育成塾に令和2年度から事務職の副課長級が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 前回指摘事項に対する対応状況 医療に係る安全管理の業務状況 医療を受ける立場の方からの視点に基づく監査について 医療安全管理部門の体制比較について 公表に行った医療事項の経過について ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法： <ul style="list-style-type: none"> 大学のHP上で公開 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部部長 医師	○	特定機能病院における医療安全管理に卓越した知識・経験を有し、当該領域に造詣が深い	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
水地 啓子	森法律事務所 弁護士		特定機能病院における医療や医療機関に関する法律に卓越した識見を有し、当該領域に造詣が深い	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
足立 雅子	病院ボランティア会		長年のボランティアの活動経験から、患者さんの立場で	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

	ンパス		病院における医療安全の推進に関して意見を述べることができる		
寺内 康夫	本学医学部長		医学生及び医師の教育・支援の観点から意見を述べる ことができる (内部委員)	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	2
高橋 知宏	法人事務局副局長		法人全体の内部監査・外部監査に携わり公平な立場で物事を判断し意見を述べる ことができる (内部委員)	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 法人の理事長、副理事長および理事により構成される経営審議会を設置しており、法人の経営に関する重要事項を審議している。月1回の開催を原則としており、病院長も理事として参画している。 ・ 会議体の実施状況（年 10 回）（令和4年度実績） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年8回）（令和4年度実績） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 大学WEBサイトに経営審議会議事録を掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 8 件) ※令和4年度受付分 (医療安全管理関連は“なし”)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 「医療安全マニュアル」「医療安全マニュアルポケット版」に掲載